

2003年度
講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画

結 義 信 画

学大野公以特

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育学概論(旧教育原理Ⅰ)	01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	竹中暉雄
<p>[講義概要・学習目標] 「教育職員免許法施行規則」で規定されている「教育の基礎理論」のうち、教育の理念並びに教育に関する歴史および思想を内容とする。 これまで学校教育だけで12年間以上も教育を受けてきたが、いざ「教育とは何か」と改めて問われると極めて答えにくいものである。教育について考えるためには、人間について考えることから始めなくてはならない。なぜ人間だけ長期にわたる教育が必要なのか、そしてまたなぜそのことが可能なのだろうか。このような疑問に答えるためには、いま急速な発展を遂げつつある脳科学の助けが不可欠となる。 その次に出てくるのは「ではどのような人間をつくるのか」という教育理念の問題である。教育の理念は時代とともに、社会とともに変化する。ルネッサンス以降における代表的な教育論者の見解について概観していくが、そのさいにおいても重要なことは、それらの諸見解と時代背景との関係である。 教育学の学習において留意しておいてほしいことは、いわゆる決まりきった「正解」というものは存在しないということである。神秘性に満ちた人間についての学問なので、仕方のないことである。講義内容および各自が独自に仕入れた知識を比較検討して、自分自身の教育論を持つようにしてほしい。質問・意見は質問票ないしE-mail (takenaka@andrew.ac.jp) で受けつけます。</p>	<p>[講義計画] 教育の本質 1 教育の一般的定義とその問題点 2 人間の教育必要性 3 人間の脳と教育 その1 4 人間の脳と教育 その2 5 人間の脳と教育 その3 6 教育上の人間関係 教育理念の思想史 7 近代教育の原理「合自然」 8 ルソーによる「子どもの発見」 9 「合自然」の流れと反「合自然」 10 児童中心主義とデューイ教育学 11 連続の教育と非連続の教育 12 まとめ 13 試験</p>			
<p>[成績評価の方法] 論述試験による。コメントカードは参考として使用。</p>	<p>[参考文献] 竹中・中山・宮野・徳永『時代と向き合う教育学』ナカニシヤ出版、2003年改訂版</p>			
<p>[教科書] 使用しない。毎回、プリントを講義開始前に配布する(遅刻者には終了後)。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教職概論(旧教育原理Ⅱ)	01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	林 陸雄
<p>[講義概要・学習目標] 1997年の教育職員養成審議会答申を受けて教育職員免許法が改訂された。その改訂ポイントは、教科に関する科目を半減させ、それに替えて教職に関する科目の重視、とくに生徒指導力の向上と教職の使命感の高揚に力点が置かれたことだ。 それを受けて、この科目も必修科目として新設されたのである。求められていることは、教職の使命感についての自覚と、教職への志向と一体感の形成・強化である。昨今の青少年が示す様々な教育問題の背景に、教員の在り方が種々取りざたされている。さらにこの困難な状況を克服するためにも、教員の在り方に対する厳しい目が注がれている。 子どもの成長を援助し、子どもの成長をもって自己の喜びとする仕事が教職である。そのための基本的な思想・感性・知識・技能を修得していくためのガイドラインとして、この科目が位置づけられている。履修する以上、教職に就くという強い目的意識をもって受講してほしい。 可能な限り、視聴覚教材を使用し、参加型・体験型の授業形態をとる予定である。主体的な受講を期待している。各種の学校を訪問し、参観、補助活動も課外に課す予定である。</p>	<p>[講義計画] 1. 現代社会における教師の現状 1 2. 現代社会における教師の現状 2 3. 戦前の教員養成 1 4. 戦前の教員養成 2 5. 戦後の教員養成 1 6. 戦後の教員養成 2 7. 中学校の教諭生活の実際 1 8. 中学校の教諭生活の実際 2 9. 高等学校の教諭生活の実際 1 10. 高等学校の教諭生活の実際 2 11. 教師像の類型 1 12. 教師像の類型 2 13. 教師教育の課題 1 14. 教師教育の課題 2</p>			
<p>[成績評価の方法] 毎回の小レポート、期末考査の結果を総合して行う。 ただし、2/3以上の出席のないもの、遅刻早退の多いもの、授業に積極的に参加しないものは、評価の対象としない。</p>	<p>[参考文献] 授業中に、適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書] 山崎秀則 西村正登 編著 『求められる教師像と教員養成』 ミネルヴァ書房</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育心理学	01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	冷水啓子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近年、学校では、不登校やいじめに加え、授業中私語に興じて教師の話の聞かない、無断で立ち歩いたりふざけ合ったりして授業に集中できない、我慢ができません細なことですぐに切れる、といった児童・生徒の行動傾向が問題視されている。では、このように日常的に起こりうる困難な事態に対し、教師はどのように対処すればよいであろうか。適切に対応するためには、子どもの発達の様相や一般的な教授・学習方法に精通しているうえに、さまざまな発達障害や問題行動への臨床援助に関する基礎的知識・理解やセンスをも併せもつ必要がある。すなわち、平常の授業を円滑に運営するだけでなく、問題の発生を未然に防いだり、起こった問題の原因を究明して解決へ導いたりするための知識・理解や技能、柔軟な判断能力や態度が必要とされるのである。</p> <p>そこで、この「教育心理学」では、生涯発達の観点から「幼児、児童・生徒の心身の発達および学習の過程」に関する基礎的理論と教育実践について学び、実践的指導力を身につけるための基礎作りを目指す。</p> <p>なお、これは、教育職員免許法により規定されている「教職に関する科目」の一つとして、本学教職課程では必修とされている随意科目である。授業に関連する補足資料は、コンピュータ、OHC、VTR、印刷物などにより適宜提供する。受講生の主体的・積極的な授業参加を期待している。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 生涯発達と発達理論 3. 乳幼児期の発達 4. 発達障害とその臨床援助 5. 児童期・思春期の発達 6. 児童期・思春期の心理障害と臨床援助 7. 学校臨床 8. 青年期の発達 9. 青年期の心理障害と臨床援助 10. 全体のまとめ <p>〔但し、授業の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある〕</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を重視する（原則として 1/3 以上の欠席は認めない）。学期中、必要に応じてレポート提出を求める。学期末には論述試験を実施する。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>藤永保（著）『幼児教育を考える』（岩波新書） 井上健治（著）『子どもの発達と環境』（東京大学出版会） 三浦香苗 他（編）『教員養成のためのテキストシリーズ2 発達と学習の支援』（新曜社） 大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ—発達と学習指導の心理学—』（東京大学出版会） 高橋恵子・波多野詔余夫（共著）『生涯発達の心理学』（岩波新書）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ—発達と臨床援助の心理学—』（東京大学出版会）</p>	他			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育方法学	01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	冷水啓子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この「教育方法学」では、子どもが知的好奇心や探求心をかき立てられながら主体的に学び、学ぶ楽しさ・充足感を味わうことのできる学習とは何かを考える。新しい学習指導要領では、「生きる力」の育成が重視されているが、それは「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力」といった側面を持つ。したがって、ここでは、そのような能力を育成するための「教育の方法および技術」に関する基礎的理論と授業（教科学習および総合的学習）でのその活用法について学び、実践的指導能力を培うべき基礎作りを目指す。</p> <p>具体的には、はじめに、教授・学習活動に関する基礎的理論を概観し、子どもの学習意欲を促進させる効果的な教授・学習方法や教育メディアの特徴を学ぶ。つぎに、子どもの年齢や個性に即した学習過程を支援するためのコンピュータ教育利用を取り上げ、コンピュータ実習を通じその実際を体験的に理解する。さらに、4年次に実施される教育実習では、ここで各自が習得した新しい教育メディアや教授・学習法を実際に活用し、その効果のほどを確認してみたい。</p> <p>なお、これは、教育職員免許法により規定されている「教職に関する科目」の一つとして、本学教職課程では必修とされている随意科目である。授業に関連する補足資料は、コンピュータ、OHC、VTR、印刷物などにより適宜提供する。受講生の主体的・積極的な授業参加を期待している。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教授・学習活動 <ol style="list-style-type: none"> 1) 学習の原理 2) 科学的認識と社会的認識 3) 学習と認知 4) 学習への動機づけと学習意欲：知的好奇心と学習方法 2. 教授・学習過程 <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業における教授・学習過程 2) 個人差と学習指導法 3. 学習指導と学習評価 <ol style="list-style-type: none"> 1) 学習指導過程 2) 教育測定と学習評価 3) 心理テストの利用 4. コンピュータ教育利用：その理論と技法 <ol style="list-style-type: none"> 1) コンピュータ教育利用に関する諸問題 2) 電子メールやインターネットの利用 3) 文章作成ソフトや表計算ソフトの利用 5. 全体のまとめ <p>〔但し、授業の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある〕</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を重視する（原則として 1/3 以上の欠席は認めない）。学期中、必要に応じてレポート提出を求める。学期末には論述試験を実施する。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>波多野詔余夫・稲垣佳世子（共著）『人はいかに学ぶか—日常的認知の世界—』（中公新書） 情報教育学会 他（編）『インターネットの光と影』（北大路書房） 松原達哉（編著）『最新心理テスト法入門』（日本文化科学社） 三浦香苗 他（編）『教員養成のためのテキストシリーズ2 発達と学習の支援』（新曜社） 大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ—発達と学習指導の心理学—』（東京大学出版会） 多鹿秀継（著）『教育心理学—「生きる力」を身につけるために—』（サイエンス社） 梅本堯夫 他（編）『心理学—心のはたらきを知る—』（サイエンス社）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>追って指示する。</p>	他			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会科・地歴科教育法 (旧社会科教育法) (旧地理歴史科教育法)	01	通期	4単位	野尻 亘
<p>[講義概要・学習目標] 学校教育現場では、いじめ・不登校・校内暴力・非行・差別などの諸問題に苦悩している。このような状況の中で、中学「社会科」・高校「地理歴史科」の教育や授業は、どのようにあるべきか。 単に知識や技能の伝達に留まらず、新しい学力観をふまえた上で、人権教育・平和教育・環境教育・開発教育・国際理解教育といったテーマについて、地理歴史教育の再構築を目指すこととする。</p> <p>この授業は中学校社会科・高校地理歴史科教員免許取得の必修科目です。そのため模擬授業や討論など演習形式を採用して行います。教員免許取得の希望のない学生が履修しても苦痛となります。そのため、よく注意して履修手続きをしてください。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校における教科教育 陶冶と訓育 2. 地理歴史科の目標 3. 地理歴史科のカリキュラム構成 4. 教育実習と授業実践 5. 授業指導案の作成と成績評価 6. 地理歴史教育と人権学習・同和教育の実践 7. 学校地理教育・歴史教育の目標と課題 8. 生涯学習社会と地理歴史教育 			
<p>[成績評価の方法] 指定した書式にもとづく「授業指導案」をレポートとして作成し提出する。このことを単位認定の基礎条件とする。演習形式。</p>	<p>[参考文献] 文部科学省『高等学校学習指導要領』大蔵省印刷局 井原政純『社会・地理・公民科基礎論』多賀出版 永井滋郎・平田嘉三『社会科重要用語300の基礎知識』明治図書</p>			
<p>[教科書] 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』実教出版 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』大阪書籍</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会科・地歴科教育法 (旧社会科教育法) (旧地理歴史科教育法)	02	通期	4単位	山崎 充彦
<p>[講義概要・学習目標] 地理・歴史科の教員免許取得希望者の必修単位である。 知識の詰め込みに終始すると捉えられがちなこの教科の学習目標は、一体如何にあるべきかに留意しつつ、授業運営を行い、各自に模擬授業を行ってもらおう。 もっぱら教員免許取得希望者を対象とし、模擬授業を中心とした演習形式とするので、教職希望しない者にとっては、あるいは苦痛を感じるかもしれない。 その点、留意の上、登録履修されたい。 なお、担当者の専門との関係上、歴史分野に重点をおきたいとは思わず、地理分野に主たる関心を持つ者の登録履修も歓迎する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>開講当初は、担当者が指導案作成などについて講義するが、この授業は、そもそもが教員免許取得希望者を対象とするものであり、履修者全員が模擬授業担当を義務づけられ、以下のような形での授業への積極的参加が要求される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各自がそれぞれ学習指導案を作成する。 2. その指導案に基づき、毎回一人に模擬授業を行ってもらおう。(原則50分授業) 3. その際、当日の出席者全員に対して、レジュメとして指導案および当日の授業資料を配布する。 4. 模擬授業終了後、出席者全員で、その授業の問題点について討議する。 =指導案そのものの問題点、模擬授業と指導案との相違点、授業の問題点等々。 5. 当日の出席者は、その模擬授業についてまとめ、当日ないしは翌週にレポートを提出する。 <p>模擬授業担当の日時については、開講当初に相談の上、決める。 受講者の人数にもよるが、少数の場合、年に複数回、模擬授業の担当が当たることになるかも分からないので、その点、留意されたい。</p>			
<p>[成績評価の方法] 学習指導案の作成、模擬授業の内容、討論への参加、レポートの提出、これらにより、総合的に評価する。</p> <p>模擬授業の担当は、単位認定の必須条件である。</p> <p>模擬授業の担当日に無断欠席した者は理由の如何を問わず、その時点で「不可」と判定する。</p>	<p>[参考文献] 文部省、『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』、実教出版</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会科・公民科教育法 (旧社会科教育法) (旧公民科教育法)	01	通 期	4 単位	飯 島 敏 文
[講義概要・学習目標] 社会科は第2次大戦後にはじめて登場した教科です。この半世紀、社会科のあり方については、さまざまな議論が戦わされてきました。このことは、社会科という教科が、それだけ多くの関心を集めている証でもあります。 本授業の前期においては主に社会科を取り上げ、社会科の成立、成立期社会科の意義、さらにはその後の議論を考えることを通して、現代社会科の可能性と限界を探ることとします。また後期においては主に公民科を取り上げ、公民科の成立、公民科の特徴、公民科の意義などを明らかにした上で、終戦直後の公民教育構想を振り返ります。前期及び後期においては、それぞれ、社会科の学習指導案及び公民科の学習指導案の作成に取り組みます。 とくに「社会科嫌い」の子どもが多く生まれている現実には、社会科授業・公民科授業が魅力あるものになっていないことを証明しています。事実を覚えるのが社会科授業・公民科授業の目的ではありません。社会生活を理解すること、そして、その理解の上で建設的に行動できる人間を育てることが社会科授業・公民科授業には求められます。すべての教科にとって普遍的な事柄についても多く触れていく予定ですので、単なる社会科・公民科免許のための講義と思わずに、自らの授業観・教育観の転換をめざしていただきたいと思えます。既成観念にとらわれない学習指導案を考案してください。	[講義計画] 前1 社会科成立前史 前2 社会科の成立 前3 成立期社会科の特徴 前4 成立期社会科の意義 前5 成立期社会科の実践 前6 成立期社会科の課題 前7 社会科学習指導要領の変遷と現代社会科 前8 社会科学習指導案の作成 後1 公民科成立までの経緯 後2 公民科の成立 後3 公民科の特徴 後4 公民科の意義 後5 公民科の実践 後6 公民科の課題 後7 終戦直後の公民教育構想と現代公民科 後8 公民科学習指導案の作成			
[成績評価の方法] 出席、小レポート、期末試験を総合して評価する。	[参考文献] 授業中にその都度紹介する			
[教科書] 必須 中学校学習指導要領 高等学校学習指導要領				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会科・公民科教育法 (旧社会科教育法) (旧公民科教育法)	02	通 期	4 単位	宮 本 進
[講義概要・学習目標] 21世紀初頭の地球は科学技術、情報技術の進歩、経済活動の多国籍化、地球環境の悪化など急激な変化の最中にある。地球の人口は約61億人、主権国家は190余である。その中で約13億人が1日1ドルで生きようとし、約8億人が飢えに苦しみ、約12億人が安全な水を飲めず、約10億人が読み書きが出来ないなど、すべてが豊かな生き方、暮らしが出来ている訳ではない。日本は経済低迷の最中で、国民は漠とした不安の中にいる。また、地球の幾つかの地域では紛争中であり、日本もそれには無関係ではられない。社会科・公民科は現代的な課題に向き合う重要な教科だと言える。教員の立場の人間としてどう向き合うのか、生徒達にどう向き合わせさせるのか。これを基本的問題意識として提起しつつ、教科の目的と役割、教育課程の変遷、教育課程の内容や教授方法などを考察しながら社会科・公民科教育の在り方を研究する。講義だけでなく、討論や、模擬授業などを取り入れた参加型の授業にしたい	[講義計画] 1. はじめに＝講義概要など 10. ～ 12. 2. ～ 3. 社会科指導要領の内容と授業 3. どんな社会に生きてるのか 13. ～ 15. 4. 学校教育と生徒の現状 公民科指導要領の内容と授業 5. 教員の現状は 16. ～ 17. 6. どんな教員になるのか 模擬授業の準備と学習指導案の作成 7. 戦後の中等社会科・公民科教育 18. ～ 24. 8. 社会科・公民科の役割 模擬授業による授業研究 9. 中等社会科・公民科教育の課題 25. まとめ 26. テスト			
[成績評価の方法] 出席回数、授業内での発表、小レポート、期末レポートなどを総合して行う。但し2/3以上の出席がない場合は評価しない。	[参考文献] 授業の中で適宜紹介する			
[教科書] 授業ノート・資料などをプリントして配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商業科教育法 (旧商業科教育法 (2))		通 期	4 単位	松 原 勇
<p>[講義概要・学習目標] 現代における経営革新時代に商業科教員を目指す学生を対象にした高等学校教員免許取得のための必修科目である。 産業経済が激動する商業教育は、グローバル・スタンダード（国際標準）を基本にして、国際化・情報化に対応できる人材の育成が急務である。近年、特に優れた職業倫理を身につけ、「心の充実」「思考力の強化」「高度で専門的な知識・技術」等の習得が不可欠である。このほど発表された教育基本法改正案（中間報告）・新学習指導要領を踏まえ、21世紀に生きる人材は「アイデンティティ」「豊かな人間性」「一人一人の個性」等を伸ばす能力を十分に生かすことを大きな目標としている。その趣旨を踏まえ、将来教育に携わる者は、常に教育理念を念頭におきながら、商業教育の本質に立脚した姿勢と自覚と責任をもって臨まなくてはならない。 本講は、教育者としての人間力を磨くと共に産業経済の現状と将来の商業教育を展望しつつ、教育上の本筋を究明する。特に年間指導計画、毎時の学習指導案の作成、学習指導法、模擬授業など教育者が修得すべき方法論を重点的に網羅して講義する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 商業教育の意義と目的 2 商業教育の変遷 3 現在の高等学校の商業教育 4 商業教育における国際化と情報化 5 教育課程の編成 6 学習指導法（模擬授業の展開） 7 学習指導計画と教育評価 8 教員の資質能力と研修制度 9 職業資格制度と検定試験制度 10 今後の商業教育の展望等 			
<p>[成績評価の方法] 主として、出席を厳しく重視して評価する。なお、模擬授業の実践面の評価、期末試験等も勘案のうえ、総合評価とする。</p>	<p>[参考文献] 高等学校学習指導要領解説（商業編 文部省）</p>			
<p>[教科書] 松 原 勇(編著)「商業科教育法」(ぎょうせい)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語科教育法 I (旧英語科教育法)		通 期	4 単位	島田勝正
<p>[講義概要・学習目標] 英語教員志望者を対象とする。英語科教育の基礎理論を概観するとともに、その理論の教育実践への適用を考察する。授業内容は第二言語習得論、英語教育目標論、指導課程論（シラバス論、授業計画）、指導方法論、指導技術論（4技能、文法、語彙）、教材論、測定評価論、学習者論、教師論と多岐にわたる。単に理論の紹介に終始せず明日の教育実践を射程に入れたワークショップを展開する。その中で受講者は学習の促進としての指導は如何にあるべきかを探求することになる。その体験は授業案作成、マイクロティーチングとして具現化される。本講義の主たる目的は、中学校、高等学校、大学等で経験した英語教育や英語学習を基盤に作り上げた「思い込み(belief)」から解放し、望ましい英語授業のあり方を自己評価、自己点検するための視点、観点を提供することにある。問題意識をもって授業に臨んでほしいので、毎回「課題」提出を課す。課された分担作業は責任をもって果たすこと。授業は教科書の指定ページを読み、課題を終了していることを前提にすずめる。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 教授・学習・評価（教授の役割） 3. 第二言語習得論1（習得形成理論と創造的構築） 4. 第二言語習得論2（学習転移） 5. 第二言語習得論3（誤答分析） 6. 第二言語習得論4（インプット仮説） 7. 第二言語習得論5（形式教授の役割） 8. 言語能力の分類 9. 文法教授（意識化活動） 10. 第二言語習得論6（有標性理論、教授可能性理論） 11. 目標論1（コミュニケーション能力） 12. 目標論2（学習指導要領） 13. 定期試験 14. コミュニカティブアプローチ1（機能シラバスと文機能分析） 15. コミュニカティブアプローチ2（指導法） 16. スピーキング（情報差活動） 17. リスニング（背景知識の活性化） 18. リーディング（発問の種類と方法） 19. ライティング 20. 語彙（記憶術） 21. 授業案、授業分析 22. テスティング1（妥当性、信頼性） 23. テスティング2（テスト項目改善） 24. テスティング3（技能判断） 25. テスティング4（項目分析） 26. 定期試験 			
<p>[成績評価の方法] * 得点配分は以下の通り。(1) 課題1回3点×12回=36点 (2) レポート24点 (3) 定期試験40点 * 次のいずれかに該当する場合は単位を認定しない。(1) 各学期2回を越えて欠席した場合 (2) 定期試験を無断で欠席した場合 (3) レポートを提出しない場合</p>	<p>[参考文献]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 白畑他(著)『英語教育用語辞典』大修館書店 1999 2. Richards, J., J.Platt and H.Platt (eds.) <i>Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics: Third Edition</i>. Longman. 2002. 3. 青木(編)『英語授業実例事典 I, II』大修館書店 1990, 1994 4. 山田、望月(編)『私の英語授業』大修館書店 1996 5. 青木(編)『英語授業の組立て』開隆堂 1990 			
<p>[教科書] 教科書：青木(編)『新しい英語科教育法』現代教育社 2002 Course Notes：島田勝正(編著) <i>Methods of Teaching English as a Foreign Language: Testing of Teaching (Third Edition)</i> (ガイダンス時に配布する。)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語科教育法II		通 期	4 単位	島田勝正
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「英語科教育法 I」で得た知見を基盤に、英語科の指導と評価のシミュレーションを行う。</p> <p>具体的には、模擬授業(授業案作成—授業提案—授業観察—授業批評—授業案の改善—授業再提案の過程を経る)を通して、英語授業の構成能力を練磨する。また、テスト作成(妥当性、信頼性の高いテストの作成実習)、実技テストにおける評定者訓練を通して、評価の観点と評価基準を明らかにする。</p> <p>すべての授業は、単に理論の紹介に終始せず、「教育実習」を射程に入れた課題中心のワークショップとする。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 英語授業案作成 3. -13. 英語授業研究 14. -20. 英語筆記テスト分析と作成 21. -23. 英語実技テストの評定者訓練 24-26. データ処理 <p>*受講生の数により変更も有り得る。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>* 得点配分は以下の通り (1) 授業参加48% (2) 授業提案20% (3) レポート32% * 次のいずれかに該当する場合は単位を認定しない。(1) 各学期 2回を越えて欠席した場合 (2) 授業提案をしない場合 (3) レポートを提出しない場合</p>		<p>[参考文献]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 白畑他(著)『英語教育用語辞典』大修館書店 1999 2. Richards, J., J.Platt and H.Platt (eds.) <i>Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics:Third Edition</i>.Longman. 2002 3. 青木(編)『英語授業実例事典 I, II』大修館書店 1990, 1994 4. 山田、望月(編)『私の英語授業』大修館書店 1996 5. 青木(編)『英語授業の組立て』開隆堂 1990 6. Heaton, J.B. <i>Writing English Language Tests: New Edition</i>. Longman. 1988. 		
<p>[教科書]</p> <p>教科書：青木(編)『新しい英語科教育法』現代教育社 2002 Course Notes：島田勝正(編著) <i>Methods of Teaching English as a Foreign Language: Testing of Teaching (Third Edition)</i> (英語科教育法Iで使用したもの)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
道徳教育の研究		秋学期	2 単位	徳 永 正 直
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近年マスコミを賑わしている未成年者による凶悪犯罪や、援助交際、オヤジ狩り、学級崩壊、いじめ等の子どもたちの「荒れ」に対処するために、道徳教育のなお一層の充実強化が求められている。しかし、「道徳」授業の評判はあまり良くないようである。そこで何故「道徳」授業がつまらないのかを考え、子どもたちの問題行動の背景と原因をアリス・ミラーらの「反教育学」をひとつの手がかりとして考察し、道徳性発達理論に依拠した「道徳」授業の可能性を、教育的タクト論の視点から検討する。</p> <p>となく問題が多いとされる「道徳」授業や道徳教育の課題設定のあり方について、各自が自分自身の見解を持つようになることが目標である。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「教育」の重要性と危険性 ②「道徳」授業批判 ③子ども問題行動を考える。1980年以後の問題行動の変遷 ④アリス・ミラーの「反教育学」の立場から ⑤道徳教育の課題 学習指導要領の解説と問題点 ⑥道徳性発達理論 ピアジェ、コールバーグ等 ⑦ジレンマ資料に基づく「道徳」授業の意義と問題点 ⑧実際の授業の展開(ビデオ視聴) ⑨教育的タクトによる「道徳」授業の可能性 ⑩賞罰問題と子どもの人権 ⑪この講義の総括と今後の課題の提示 <p>なお、④⑥⑨についてはそれぞれ二時間かけて解説する。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験で評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>講義中にそのつど指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>徳永・堤・宮嶋・林・柳原著『道徳教育論—対話による対話への教育』(ナカニシヤ出版、2003年)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
特別活動論	01	春学期	2単位	宮本進
〔講義概要・学習目標〕 21世紀初頭の地球は科学技術、情報技術の進歩、経済活動の多国籍化、地球環境の悪化など急激な変化の最中にある。また、幾つかの地域では紛争中であり日本もそれに無関係ではられない。さらに、少子化、核家族化などが進むなかで、集団活動や人間関係をつくるのが得意な生徒が増加していると言われる。これが生徒達の問題状況を生む背景ともなっている。特別活動は教科指導とともに教育課程に位置づけられている。その内容としてはホームルーム活動（中学校では学級活動）・生徒会活動・学校行事から構成される。目的は「集団や社会の一員としての態度を養うとともに、自己を生かす能力を養うこと」とされる。受講生自らがこの力をどう養うのかを提起しつつ、それぞれの内容について具体的な諸実践を考察し、特別活動のあり方を研究する。討論等を取り入れた参加型の授業にしたい。	〔講義計画〕 1. はじめにー講義計画など 2. 指導要領における特別活動の目標と内容 3. ～5. ホームルーム活動の実際とその基本的視点 6. ～8. 生徒会活動の実際とその基本的視点 9. ～11. 学校行事の実際とその基本的視点 12. 必修クラブの廃止と部活動の意義 13. まとめとテスト			
〔成績評価の方法〕 出席回数、授業内での発表、小レポート、期末レポートなどを総合して行う。但し2/3以上の出席がない場合は評価しない。	〔参考文献〕 授業の中で適宜紹介する			
〔教科書〕 授業ノート・資料などをプリントして配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
特別活動論	02	秋学期	2単位	小島孝敏
〔講義概要・学習目標〕 日本の主な教育改革は、明治の学制発布・大戦後、そして、現在の第3次改革と言われる。今次の改革は、学校週5日制の完全実施や、「生きる力」と「ゆとり」をキーワードに提唱し、学びの力を育む、「心の教育」への転換を目指している。現場では、創意工夫を重視した新学習指導要領への移行措置も終え、幼稚園は平成12年に小・中学校は平成14年に、高等学校は平成15年度からの実施で進行中である。学校週5日制下の教育課程編制による授業展開がスタートした。改定で創設された「総合的な学習の時間」は、教育改革の柱ともなるものであり、成否は21世紀の教育のあり方を決める核であるとされ、創意ある展開が期待されている。主体的学習の基盤で、全ての学習を統合・発展する特別活動の充実、 「特色ある教育・学校づくり」に欠かせなく、子どもたちの調和のとれた豊かな人間形成に係わる資質が、特別活動の目指すものである。「学級活動、児童・生徒会、クラブ活動、学校行事」は、自主的な集団活動を通じた生活体験が有効で大切であり、重要な役割を果たしている。特に、①ガイダンス機能の充実。②自然体験や社会体験の充実。③国際協調精神を培うことが強調され、現代社会における閉ざされがちな子どもたちに、生活経験を聞き、社会関係能力の向上や改善を求めるところにあります。その意図する目標を実現するためには、まず教師自身が、目標で求められている諸能力を獲得する必要があり、現実の子どもたちを指導するための「理論と実践力」を持たなければなりません。この授業では、教育改革の趣旨を学びながら、受講生自らの社会関係能力を涵養すると共に、特別活動の教育目標と内容を実践する場となります。基礎・基本については、人権と生徒指導の視点がベースです。講義教室が学級活動そのものとなり、すべて自主的なボランティアサービスマンで運営します。「各校園の特色ある取組」の学習を通じて、教育実習前のプレ演習を兼ねた「現場訪問や交流」、「見学・観察・補助活動等の実地体験学習」、班別グループワークでの「ケーススタディ」や「プレゼンテーション」、小学生を迎える「大学探検キャンパスガイド」・中学生対象の「進路講話と進路グループ相談活動」等の地域と連動した活動も採り入れて進めます。従って、地域と連携（保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・関係機関等）しての現地実践等が多く、限られた授業回数の中で集約的に展開するので、全出席を守り遅刻や早退のないことが望ましい。	〔講義計画〕 1. 授業びらき：オリエンテーション。 ① 学習計画・グループ班分け等。 ② 特別活動の内容と目標。 2. 求められる教育改革の総点検。 ① 大阪の教育改革の取組状況。 ② 学校週5日制と総合的な学習活動の対応。 ～〔国際化・環境問題・少子高齢化社会等〕。 ③ 21世紀教育新生プラン。 3. 教育課程改革の試みと各領域別のポイント。 〔学校行事・クラブ活動・学級活動・生徒（児童）会活動〕。 4. 各校園の特色ある教育の事例～「あんな学校・こんな学校」VTR等。 5～8. 体験学習「実地交流活動」～見学・観察・補助活動・キャンパスガイド・進路指導講話の発表・進路指導相談等。 9～10. 総合的学習の演習～特色ある活動の取組と実践例・ゲスト講話等。 11. まとめ・班別プレゼンテーション等。 12. テスト。 ☆課題レポート。 特別活動のうち、具体的な内容について一つ以上のプログラムに参加し、観察補助活動を行う。その模様をレポートして提出する。書式は別に指定する。			
〔成績評価の方法〕 出席回数、授業内での小レポート、課題レポート、期末考査の結果等を総合して行う。但し、2/3以上の出席がなければ評価はしない。	〔参考文献〕 授業中にプリントを配付する。 その他 授業の中で適宜紹介する。			
〔教科書〕 特になし。 必要なプリント類は、その都度用意する。				

資格
～01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
生徒指導法	0 1	春学期	2 単位	辻 川 信 孝
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>今、学校は様々な問題を抱えている。いじめ、不登校、学級崩壊、校内暴力、高校中退など生徒指導上の問題が多発し、学校教育のあり方が問われている。一方、新しい教育のあり方が議論され、個性重視、生きる力の育成、学校週5日制への対応等、生徒指導の新しい課題も指摘され、教育改善の取り組みがすでに始まっている。</p> <p>このような状況の中で、教育実践者に、これら生徒指導上の問題の本質をとらえる目と個々の子どもに必要な援助方法を身につけることが求められている。</p> <p>本授業では、学校現場の事例を中心に、参加型の授業を進めていきたい。事例から、問題の本質を見つけ、自分なりの考えをまとめ、グループワークにより、問題解決に向けての考え方（法則性）を習得してもらいたい。</p> <p>併せて、数多くの事例に接することにより、適切な対応（生徒指導の技術）と子どもたちに接する姿勢（生徒指導の心）を学びとってほしい。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <p>1. 生徒指導とは</p> <p>①授業計画と進め方 ・子どもたちの状況と生徒指導のあり方</p> <p>2. 事例研究（学校現場の実践から学ぶ）</p> <p>①校則・生徒心得 ②いじめ ③不登校 ④授業妨害・学級崩壊 ⑤校内暴力 ⑥性に関する問題行動</p> <p>3. 求められる生徒指導</p> <p>①子どもたちへのかかわり方 ②楽しい授業づくり ③生き方としての進路指導（職場体験学習） ④学級経営に生かせるカウンセリングの演習 ⑤地域と一体の子育て支援活動</p> <p>4. まとめ</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>出席状況、期末の最終レポートの結果を総合的に評価して行う。但し、2/3以上の出席がなければ評価しない。</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>授業の中で適宜紹介する。</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>毎時間、プリントを配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
生徒指導法	0 2	秋 学 期	2 単位	宮 本 進
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>21世紀初頭の地球は科学技術、情報技術の進歩、経済活動の多国籍化、地球環境の悪化など急激な変化の最中にある。幾つかの地域では紛争中であり日本もそれに無関係ではいられない。また、日本経済は低迷中である。生徒達は将来への予測が難しく、目標が見えにくい。特に、将来の進路への漠とした不安の中にある。それが生徒達の種々の問題状況を生む背景ともなっている。生徒指導は教科指導以外の指導のことであり、その内容は学業指導・進路指導・個人的適応指導・社会性指導・余暇指導・健康、安全指導などの領域がある。究極の目的は「自らの生き方を構築する力の育成」にあると言える。受講生自らがこの力をどう養うのかを提起しつつ、生徒達の状況を踏まえ、進路指導の領域を中心に各領域について具体的な諸ケースの実践を考察し、生徒指導のあり方を研究する。討論等を取り入れた参加型の授業にしたい。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <p>1. はじめに - 講義計画など</p> <p>2. 教員達を取り巻く状況</p> <p>3. 生徒達を取り巻く状況</p> <p>4. 生徒指導とは何をすることか</p> <p>5. 生徒を理解し生徒に自己を理解させるとは</p> <p>6. ~ 8. 生徒指導の実際と原理・原則</p> <p>9. ~ 12. 進路指導の実際と原理・原則</p> <p>13. まとめとテスト</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>出席回数、授業内での発表、小レポート、期末レポートなどを総合して行う。但し2/3以上の出席がない場合は評価しない。</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>授業の中で適宜紹介する</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>授業ノート・資料などをプリントして配付する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育相談	01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	林 陸雄
<p>[講義概要・学習目標] 中央教育審議会の答申に示された目標「『生きる力』を身に付け、新しい時代を切り拓く積極的な心、正義感・倫理観や思いやりの心など豊かな人間性をはぐくむ」方策と呼応するのが、教員免許法の改定であり、新設された必修科目「教育相談」である。 現代社会の諸矛盾は直接・間接に子どもたちの生活に影響し、子どもたちを強いストレス下においている。その結果として、様々な神経症や心身症が小学生段階から現出している。これらの諸現象は、本人または家族に起因するとみられ勝ちであり、いっそう子どもたちを追い詰め苦しめている。 子どもたちが抱え込んでいる諸問題を教育相談という観点からとらえ直し、適切な支援・援助をする窓口としての機能を学校教育相談活動として位置づけたい。その機能を遂行するための基礎・基本について概説する。履修する以上、必ず教職に就くという強い目的意識を持って受講すること。 なお、より理解を深めるために体験学習をも採用する予定である。教育相談機関での参観と実習も課外プログラムとして組む予定である。</p>	<p>[講義計画] 1. 授業びらき・生徒指導・教育相談とは 2. 生徒指導の体制・教育相談の体制 3. 問題の把握・問題の理解 4. 教師・生徒関係 5. 学校不応・いじめと孤立 6. 神経症・心身症 7. 非行・勉強嫌い・無気力 8. カウンセリング 9. カウンセリング 10. 行動療法 11. 交流分析 12. 家族療法 13. まとめ</p>			
<p>[成績評価の方法] 毎回の小レポート、期末考査の結果を総合して行う。 ただし、2/3以上の出席のないもの、遅刻早退の多いもの、授業に積極的に参加しないものは、評価の対象としない。</p>	<p>[参考文献] 授業中に、適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書] 高野清純 監修 佐々木雄二 編 『図でよむ心理学 生徒指導・教育相談』 福村出版</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
教育実習 I (旧教育実習)	01 02 03	春学期 春学期 春学期	3単位 3単位 3単位	島田勝正 冷水啓子 林 陸雄
<p>[講義概要・学習目標] 教育実習 I とは、教職課程で履修してきた学習内容を現実の教育現場に立つて実地に検証するものである。これは、実習校での実地実習（2週間）とその前後の学内実習とで構成され、両者あわせて「教育職員免許法施行規則」により求められた3単位となる。中学校免許、高校免許共に必修である。 はじめに、学内での事前実習において、教育実習に臨むための基礎的な条件を再確認し、授業に必要な基本的理論と技術を習得する。次いで、教育の現場で、教員としての社会的責任を自覚したうえで、授業実習、学級経営、特別活動や課外活動の指導などを実地に体験する。第二に、実習上の要件を満たせない場合は、途中で実習を打ち切られたり、実習の評価をしてもらえなくなることもあるので、学校長をはじめ各教員による指導にしたがい、慎重に行動すること。第三に、再び学内に戻ってからの事後実習では、自己の実習経験をふまえて模擬授業に臨む。また、他の実習生や本学卒業生の体験談などをもとに実地実習内容を再点検し、教職課程全体についての自己評価を行う。 なお、この教育実習 I では、一貫して、教師としての基礎的条件に関する実地訓練がその基盤となる。したがって、事故または疾病などによる正当な理由がないかぎり、遅刻・早退・欠席は認められないので注意すること。</p>	<p>[講義計画] 1. ガイダンス 2. 事前実習：模擬授業 3. 事前実習：模擬授業 4. 事前実習：模擬授業 5. 事前実習：模擬授業 6. 事前実習：模擬授業 7. 事前実習：模擬授業 8. 実地実習 9. 実地実習 10. 実地実習又は事後実習：模擬授業 11. 事後実習：模擬授業 12. 事後実習：模擬授業 13. 事後実習：本学卒業の教員による講話 14. まとめ</p>			
<p>[成績評価の方法] 実習校による評価表、実習簿、および学内実習の評価に基づいて、教職課程委員会で総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献] 池田、酒井、野里、宇井（編著）『教育実習総説』（学文社） 白井、寺崎、黒澤、別府（編著）『教育実習57の質問』（学文社）</p>			
<p>[教科書] 桃山学院大学教職課程委員会（編） 『教職をめざして——教職課程履修ガイド [2000年度改訂版] ——』</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育実習 II		集中コース	2 単位	林 陸雄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>教育実習IIとは、教育実習Iと共に中学校免許の必修科目である。教職課程で履修してきた学習内容、特に生徒指導や特別活動・部活動など学校教育活動全般にわたる事項について、現実の教育現場に立って実地に検証するものである。その実施形態には、出身校において春学期の教育実習Iと継続して計3週間（4週間相当分）実施するものと、実習協力校において地域連携型で年間を通して実施するものがある。その違いは3年次に行う実習依頼時の内諾内容によって決定される。中学校免許には教育実習I（3単位、うち中学・又は高校で2週間相当分の2単位）と教育実習II（2単位、2週間相当分）の両者あわせて「教育職員免許法施行規則」により求められた5単位となる。</p> <p>履修登録は秋学期に行うが、3年次の実習依頼内諾結果によって、出身校で3週間通しの実習になるか、実習校と協力校での2校組み合わせになるかを確定する。4年次の春学期に提出する実習予備登録表に従って、教育実習Iのクラス編成をする。実習IIに該当する指導内容については、教育実習Iのクラス及び時間外における特別ガイダンス等において行う。</p> <p>実地実習においては、教員としての社会的責任を自覚したうえで、学級経営、特別活動や課外活動の指導などを実地に体験する。実習上の要件を満たせない場合は、途中で実習を打ち切られたり、実習の評価をしてもらえなくなることもあるので、学校長をはじめ各教員による指導にしたがい、慎重に行動すること。</p> <p>なお、この教育実習では、一貫して、教師としての基礎的条件に関する実地訓練がその基盤となる。したがって、事故または疾病などによる正当な理由がないかぎり、遅刻・早退・欠席は認められないので注意すること。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 実地実習 3. 実地実習 4. 実地実習 5. 実地実習 6. 実地実習 7. 実地実習 8. 実地実習 9. 実地実習 10. 実地実習 11. 実地実習 12. 実地実習 13. 実地実習 14. 実地実習 15. まとめ 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>実習校による評価表、実習簿、および校内実習の評価に基づいて、教職課程委員会にて総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>池田、酒井、野里、宇井（編著）『教育実習総説』（学文社） 白井、寺崎、黒澤、別府（編著）『教育実習57の質問』（学文社）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>桃山学院大学教職課程委員会（編） 『教職をめざして——教職課程履修ガイド [2000年度改訂版] ——』</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教職演習	01 02 03	秋学期 秋学期 秋学期	2 単位 2 単位 2 単位	島田 勝正 冷水 啓子 林 陸雄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>国際化時代・グローバル化時代の今日、世界の人々の日常生活が国境を越えて多様に影響し合っている事実を認識し、世界市民の一人として国際社会と関わり合っていく感性と行動力の育成は極めて重要な課題である。教職を目指すもの自身として、且つ時代を担う児童・生徒の育成に当たるものとして、この感性と行動力の育成は基本的な課題といえる。</p> <p>個別な課題としては、人間尊重・人権尊重の精神を基礎に、地球環境、情報化、異文化理解、民族対立、地域紛争と難民、人口と食料、男女共同参画、少子化、高齢化と福祉、障害者理解と共生、家庭のあり方等の諸問題があげられよう。「人類に共通する地球的課題とは何か」を共通テーマに、各自がいずれかの個別課題について分析・検討し、それらの内容を発達段階に応じて生徒にどのように教えるのかという授業研究を、クラスの中で報告（模擬授業を含む）・討議するといった演習形式で展開する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業目標と方法について 2. テーマ群の概略紹介1 3. テーマ群の概略紹介2 4. 学校現場での実践例の研究（ゲスト講師）1 5. 学校現場での実践例の研究（ゲスト講師）2 6. 個別テーマによる授業研究案の報告と討議1 7. 個別テーマによる授業研究案の報告と討議2 8. 個別テーマによる授業研究案の報告と討議3 9. 個別テーマによる授業研究案の報告と討議4 10. 個別テーマによる授業研究案の報告と討議5 11. 個別テーマによる授業研究案の報告と討議6 12. 個別テーマによる授業研究案の報告と討議7 13. 個別テーマによる授業研究案の報告と討議8 14. 個別テーマによる授業研究案の報告と討議9 15. まとめ 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、報告、討議への参加度、授業毎の小レポート、最終レポート等によって総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>その都度、紹介する</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
視聴覚教育		秋学期	2単位	冷水啓子
[講義概要・学習目標]	<p>情報化社会の進展に伴って、人々を取りまく教育・社会的環境が急速に変化しつつある。家庭、学校、地域社会において、ケーブル・テレビ、衛星放送、字幕番組などの普及により、テレビ利用の選択肢がさらに広がった。また、さまざまな電子メディアが導入され、日常的にそれらに接する機会が増えた。コンピュータ・ネットワークやインターネットを通じて、情報の検索や受信を行うだけでなく、情報発信さえも容易にできるようになり、時間や空間を越えた幅広いコミュニケーション活動が可能となった。そのため、このような視聴覚メディアを媒介として情報を適切に理解し、利用し、産出する能力(マルチメディア・リテラシー、情報活用能力、情報倫理など)の育成が、新たな教育課題として重要視されるようになった。</p> <p>そこで、この「視聴覚教育」では、「視聴覚教育とメディア」に焦点を絞り、視聴覚教育メディアの発展と特徴、それらを活用した学習支援の方法を検討する。さらに、それらの利用に際する問題点およびその教育的可能性と限界についても考察を行う。具体的には、はじめに講義中心の授業を行い、つぎにコンピュータ実習(電子メールやインターネット、文章作成ソフトや表計算ソフトなどの利用)およびプレゼンテーション教材の作成を行う。</p> <p>なお、授業に関連する資料は、コンピュータ、OHC、VTR、印刷物などを通じて適宜提供する。受講生の主体的・積極的な授業参加を期待している。</p>			
[成績評価の方法]	<p>出席および授業への参加を重視する(原則として1/3以上の欠席は認めない)。学期中、必要に応じて簡単なレポート課題を与える。学期末には、作成したプレゼンテーション教材および修了レポートの提出を求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。</p>			
[教科書]	<p>追って指示する</p>			
[講義計画]	<p>1. 視聴覚教育および視聴覚教育メディアの変遷</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 視聴覚教育および視聴覚教育メディアとは何か 2) 活字・印刷物の利用: テキスト、絵本、児童書など 3) テレビとビデオの利用: その利用形態と社会・教育的役割 <ol style="list-style-type: none"> ① 幼児教育番組 ② 字幕や手話通訳つき番組 ③ 子どもの発達や健康への影響 <p>2. コンピュータの発展と教育利用(コンピュータ実習を含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) コンピュータ・ゲーム: 子どもの発達と学習への影響 2) コンピュータの教育利用: CAI, CMI 3) 電子メールやインターネットの利用 4) コンピュータ・リテラシーや情報活用能力の育成 5) コンピュータ利用をめぐる教育・社会的諸問題 <p>3. 視聴覚教育メディアの活用: プレゼンテーション教材の作成</p> <p>[但し、授業の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある]</p>			
[参考文献]	<p>情報教育学研究会 他(編)『インターネットの光と影』(北大路書房) 水越敏行・佐伯胖(編)『変わるメディアと教育のありかた』(ミネルヴァ書房) 永田元康 他(著)『情報教育概論』(コロナ社) 中島義明(著)『映像の心理学—マルチメディアの基礎—』(サイエンス社) (財)日本視聴覚教材センター(編)『視聴覚教材メディアの活用』 野津良夫(編)『視聴覚教育の新しい展開(第2版改訂版)』(東信堂) 高島秀之(編)『教育とデジタル革命』(有斐閣選書)</p> <p style="text-align: right;">他</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
同和教育論	01	通 期	4 単位	黒 田 伊 彦
[講義概要・学習目標]	<p>今年、差別と排外主義の負の遺産というべき関東大震災の朝鮮人虐殺80年の節目の年である。また、「人権教育及び人権啓発の推進法」が実施され、人権教育の広がりや深さを支える同和教育のあり方が問われている。</p> <p>春期は、部落への差別偏見の由来や今も部落差別が続いている要因、部落の起源や部落差別への関心の歩みから、部落へのマイナスイメージをプラスイメージに転換していく事実と視点を明らかにする。</p> <p>秋期は、同和教育の歩みから融和教育、同和教育、解放教育の違い、「いじめ」を克服する同和(解放)教育のあり方及び部落悲慘史論・低位性論を克服する部落問題学習のあり方を考察し、部落問題の教科書記述批判や学習教材、集団主義と仲間づくり、学力保障と進路保障、反戦平和と教育と部落問題など、反差別・人権教育の現状と方向性を明らかにする。</p> <p>教員採用試験の同和・人権教育関係問題の演習を行う。 教科書、補充プリント、映像資料を用いる。</p> <p>春期は島崎藤村の「破戒」の課題研究と読書感想文。原作と映画との比較についてのレポート提出を課す。 秋期は「いじめ」を克服する教師のあり方についての資料によるレポートを課す。</p> <p>人権教育(部落問題)の履修が望ましい。</p>			
[成績評価の方法]	<p>春期はテストと「破戒」に関するレポートと出席点で評価する。 秋期はテストと「いじめ」に関するレポートと出席点によって評価する。 出席を重んじる。</p>			
[教科書]	<p>黒田 伊彦(編著)『部落問題・人権・同和教育教材集』(拓植書房新社)</p>			
[講義計画]	<p>(春期)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 映画「夜明けをめざして」と「人権教育のための国連10年」で培うものから、同和(解放)教育のあり方を考える。 (2) 部落差別を支えるケガレ意識の由来と日常性 (3) 気づいていない部落差別—「けじめ」「ヤブ医者と解体新書」等 (4) 部落差別の本質—部落差別が今も続いている理由 (5) 部落の起源—近世封建社会の形成と「かわた」 (6) " — 一向一揆と近世封建社会の賤民制 (7) 部落差別との関わり— 洗染一揆 VTR「触れ書き一揆」 (8) 洗染一揆の学習教材化、劇、史跡調査など (9) 解放令と身分差別の再編成—部落差別と天皇制 (10) 映画「破戒」(119分)の前半 (11) 映画「破戒」の後半、スライド「破戒の風土—藤村と部落問題」 <p>(秋期)</p> <ol style="list-style-type: none"> (12) 西光万吉と全国水平社 — VTR「よき日のために」 (13) 部落解放の方策と「ねた子を起こすな論」批判 (14) 戦前の融和教育 — 伊東茂光と崇仁教育「同和」の語源と戦時の同和教育 (15) 戦後の同和(解放)教育の歩みと人権総合学習 (16) 「いじめ」の原因とそれを克服する同和(解放)教育と教師のあり方。 (17) 部落問題学習の基本的視点—部落悲慘史論の克服を「教科書無償化を勝ちとった部落の子供たち」の教材から考える。VTR「天気になあれ」 (18) 差別と偏見 — VTR「青い目、茶色い目」 (19) 差別と差別意識の働き—差別事象の共通性 (20) 教員採用テストの人権・同和教育問題演習 			
[参考文献]	<p>黒田 伊彦(著) 『部落史紀行』 (拓植書房新社) 中野 陸夫・池田 寛・中尾 健次・森 実(著) (解放出版社) 『人権教育をひらく—同和教育への招待』 (阿吽社) 藤田 敏一(編) 『「部落民」とは何か』 (阿吽社)</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
同 和 教 育 論	0 2	通 期	4 単 位	寺 木 伸 明
<p>[講義概要・学習目標] 本講義では、まず同和教育とはどのような教育をいうのかを説明し、そしてそもそも同和教育は必要なのか、ということについて共に考えてみたい。 次に、現在、部落の子供たちをとりまく、生々しい差別の実状について、ビデオなどを見ながら理解を深めていきたい。そうした現実を踏まえて、現在、小学校・中学校・高校でどのような同和教育の実践が行われているのかを説明する。その際、中学校と高校の先生にゲスト講師としてきていただき、教育現場での取り組みの現状を報告していただく予定である。 つづいて、同和教育の歴史、部落問題学習の実際の進め方などについて、最近の研究成果を踏まえて講義する。 秋学期の後半は、グループごとに部落問題学習に関する模擬授業を行ってもらおう。</p>	<p>[講義計画] 1 同和教育とは何か 2 同和教育は必要か 3 被差別部落の子供をとりまく差別の現状 4 中学校における同和教育の実践（ゲスト講師予定） 5 高校における同和教育の実践（ゲスト講師予定） 6 同和教育の歴史 7 部落問題学習の進め方 8 同和教育の成果と課題 9 部落問題学習の模擬授業（グループで）</p>			
<p>[成績評価の方法] 前期のレポートおよび学年末の試験の成績を基本にして出席点（適宜、出席カードに簡単な感想を書いてもらう）を加味して総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献] 寺木伸明・野口道彦編『部落問題論への招待 資料と解説』解放出版社</p>			
<p>[教科書] 中野陸夫・池田寛・中尾健次・森実『同和教育への招待』解放出版社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
図 書 館 経 営 論		秋 学 期	2 単 位	西 田 文 男
<p>[講義概要・学習目標] 生涯学習社会における図書館という視点を重視して、図書館経営にかかわる組織、管理・運営、各種計画について解説する。</p>	<p>[講義計画] 1. 図書館経営の在り方 2. 自治体行政と図書館（他部局等との関係を含む） 3. 図書館の組織と管理・運営 4. 図書館長・図書館員の責務及び養成・研修（ボランティアの養成・活用を含む） 5. 図書館サービス計画の意義と方法（各種調査、広報を含む） 6. 図書館の整備計画と施設、設備、備品 7. 図書館業務・サービスの評価 8. 情報ネットワーク形成の意義と方法（関係機関等との連携を含む）</p>			
<p>[成績評価の方法] 定期試験の成績を主に、出席状況も加味して評価する。</p>	<p>[参考文献] その都度指示する。</p>			
<p>[教科書] 竹内紀吉「図書館経営論」 教育史料出版会（新編 図書館学教育資料集成 2）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
情報サービス概説		春学期	2 単位	西 田 文 男
[講義概要・学習目標] 図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等について総合的に解説する。	[講義計画] 1. 情報サービス一般の広がり と 図書館が行う情報サービスの位置づけ 2. 図書館における情報サービスの意義と種類 (レファレンスサービス、レファラルサービス、カレントアウェアネスサービス等) 3. 情報及び情報検索行動についての基本的理解 4. レファレンスプロセス (レファレンス質問の受付から回答まで、マニュアル検索とコンピュータ検索を含む) 5. 情報検索サービスの方法、プロセス・評価 6. 主要な参考図書、データベースの解説と評価 7. 参考図書及びその他の情報源の組織 (二次資料の作成にも触れる) 8. 各種情報源の特質と利用法			
[成績評価の方法] 定期試験の成績を主に、出席状況も加味して評価する。	[参考文献] その都度指示する。			
[教科書] 西田文男監修 志保田 務・平井尊士編著 「情報サービス：概説とレファレンスサービス演習」 学芸図書				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
情報サービス演習		秋学期	1 単位	西 田 文 男
[演習概要・学習目標] 参考図書その他の情報源の利用や作成、レファレンス質問の回答処理の演習を通して、実践的な能力の養成を図る	[演習計画] タイプの異なる各種の演習問題を課し、回答を作成してもらう。 1. 図書に関する質問 2. 逐次刊行物に関する質問 3. ことばと成句に関する質問 4. ものとなことごらに関する質問 5. 時と歴史に関する質問 6. ところと地理に関する質問 7. ひとと機関に関する質問 8. 総合質問			
[成績評価の方法] 定期試験の成績を主に、出席状況・日常の発表等を加味して評価する。	[参考文献] その都度指示する。			
[教科書] 西田文男監修 志保田 務・平井尊士編著 「情報サービス：概説とレファレンスサービス演習」 学芸図書				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
情報検索演習	01	春学期	1単位	志保田務
<p>[演習概要・学習目標] 図書館が、オンライン、オンデスクのデータベースに利用者のために接続するサービスは、今日必須のこととなっている。このサービスの専門家、図書館の外の世界ではサーチャー（インフォメーション・サーチャー）と呼ばれる。ここでは、1級、2級と高位の資格であるサーチャーへの登竜門となる情報検索基礎能力試験を目線において学修する。 各分野の専門家によるインテグレーション授業とし、大半はA館のコンピュータ演習室を使用する。 この授業の受講を始めるには、第1回講義までに、次の条件を満たしておくこと。 1 E-MAIL Addressを取得しておくこと（学内LANのそれでよい） 2 パソコンキーボードの操作、入力ができること。</p>	<p>[演習計画] 1. ガイダンス 情報利用社会 2. 情報検索概論（情報検索と情報処理の違い） 3. 情報検索の基本1（主題分析、分類、キーワード、一次情報と二次情報） 4. 情報検索の基本2（検索式、検索コマンド） 5. 情報検索の実際1（図書、雑誌） 6. 情報検索の実際2（新聞記事、雑誌記事） 7. 情報検索の実際3（企業、人物）日本 8. 情報検索の実際4（企業、人物）外国 9. 情報検索の実際5（生活、趣味、その他） 10. 特許情報 11. 情報検索と英語 12. 情報検索の企業での役割 期末レポート</p>			
<p>[成績評価の方法] テスト 70% 課題 20% 出席 10%</p>	<p>[参考文献] 志保田務編著『情報機器論・特論：メディアの活用』（第一法規） 『最新オンライン情報源活用法』（日外アソシエーツ）</p>			
<p>[教科書] 『情報の管理と検索』（情報科学技術協会）2000（2000円） ①. 生協にて一括購入し販売する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
情報検索演習	02 03	春学期 秋学期	1単位 1単位	中 崎 修 一
<p>[演習概要・学習目標] 現在、多様化した情報資源を活用する能力は必須となっている。特に、ネットワークを利用することで、場所を移動することなく、世界中の様々な情報源から必要な情報を瞬時に収集できるようになった。 本演習では、情報の読み方や多種多様な情報の検索を通じて、情報源の調査、情報収集の手法と多様化した情報源へのアクセス法の習得を図ると同時に、実践的な技術の習得を図ることを目的とする。 レポート提出および連絡を電子メールで行うため、基本的なパソコンおよび電子メールの利用を習得していることを前提とする。</p>	<p>[演習計画] 1. 情報化社会と情報メディア 2. 情報検索概説 3. 一時情報と二次情報 4. データベース基礎 5. 情報検索の論理 6. インターネットと情報検索 7. 情報検索の実際：図書情報 8. 情報検索の実際：雑誌情報 9. 情報検索の実際：新聞情報 10. 情報検索の実際：学術情報 11. 情報検索の実際：その他 12. まとめ</p>			
<p>[成績評価の方法] 課題提出、筆記試験、出席から総合的に判断する</p>	<p>[参考文献] 志保田務・平井尊士編著『情報機器論・特論：メディアの活用 12章』（第一法規）</p>			
<p>[教科書] 志保田務・平井尊士・中崎修一編著『情報活用法：情報検索・情報処理の楽々実行 -サーチャー・システムアドミニストレータへの入門路-』（学芸図書）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
資料目録法		春学期	2 単位	北 克 一
[講義概要・学習目標] 講義概要—学習目標 図書館は資料・情報を収集・整理・保存し、提供する社会的記憶装置である。図書館活動を基礎で支える資料・情報の組織化について、その意義の理解を進め、実務で用いるツール等の基礎知識を獲得することを目的とする。	[講義計画] 講義計画 1. 書誌コントロールと資料組織化の目的と意義、歴史 2. 目録の機能、目録規則の構成原理、その適用。 3. 典拠コントロールの目的と機能 4. 書誌データと典拠ファイル 5. キーワード検索と全文検索 6. 機械化、総合目録、インターライブラリー・ローンへの展開 7. 電子ジャーナル、電子図書館とメタデータ 8. まとめ			
[成績評価の方法] 成績評価の方法 期末テストおよび小レポート	[参考文献] 参考文献 宮澤彰『書誌ユーティリティ』丸善、2002。 井上如〔ほか〕著『学術情報サービス—21世紀への展望—』丸善、2000。			
[教科書] 教科書 志保田務・高鷲忠美『資料組織法』第5版 第一法規出版 2002				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
資料分類法		春学期	2 単位	上 田 格
[講義概要・学習目標] 図書館には膨大な蔵書が蓄積されている。その中から必要な図書を迅速に、かつ効率よく見つけ出し利用に供するには、蔵書が一定の法則にしたがって排架されていることが必要である。 また、特定の主題に関する図書を目録から検索する場合にも、その理論と方法の理解があれば、主題検索の技術は飛躍的に向上する。本講義では、以上の主題検索の基礎である分類法、件名法の概要を説明する。	[講義計画] 1. 資料組織化の意義 2. 書架分類と書誌分類 3. 分類の原理 4. 図書分類の歴史と主要な分類表 5. 日本十進分類法：概要 6. 日本十進分類法：補助表の種類 7. 図書館分類における主題の把握法 8. 分類作業 9. 図書の排架法（別置法と図書記号法） 10. 件名法 11. 件名標目と自然語			
[成績評価の方法] 出席状況とテストの成績で評価する。	[参考文献] 千賀正之著『図書分類の実務とその基礎 改訂版』（日本図書館協会）			
[教科書] 木原通夫ほか著『資料組織法 最新版』（第一法規出版）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
資料目録法演習	01 02	秋学期 秋学期	1単位 1単位	北 克 一
[演習概要・学習目標] 資料目録法で学習した目録規則、典拠コントロールなどを目録作成の演習を通して、目録に対する理解・経験を深めることを目的とする。実際に書誌ユーティリティを使用し、書誌データベース構築を基礎演習する。 各自の演習データ保存用にフロッピーディスク(3.5インチ/2HD)を持参のこと。	[演習計画] 1. 書誌ユーティリティのシステムと参加図書館の役割 2. 書誌レコード、典拠レコードの検索演習 3. 和図書館所蔵登録、流用入力、新規入力演習 4. 洋図書館所蔵登録、流用入力、新規入力演習 5. 和雑誌所蔵登録演習、洋雑誌所蔵登録演習 6. 典拠コントロール演習 7. 遡及入力とカード目録 8. OPAC構築演習 9. まとめ			
[成績評価の方法] 演習課題レポートおよび理解度小テスト	[参考文献] 図書館情報学会研究委員会編『電子図書館』勉誠社、2001。			
[教科書] 北 克一著『資料組織演習－書誌ユーティリティ、コンピュータ目録－』 改訂新版 M. B. A. 2000				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
資料分類法演習		秋学期	1単位	上 田 格
[演習概要・学習目標] 前期で学んだ分類法について、日本の図書館界に広く普及している日本十進分類法(NDC)を適用して、実際の分類作業を演習する。 授業時間内に 何回かペーパーの演習問題を課するので、各自で解答してペーパーを提出してもらおう。(欠席が多くなると極めて不利になる) ペーパー提出の次回には 各自の解答について講評し 分類作業の理解を深める。	[演習計画] 1. 主題分析と主題把握 2. NDCによる分類作業 ①NDCの構成 3. " ②形式区分 4. " ③地理区分 5. " ④言語区分・言語共通区分 6. " ⑤文学共通区分 7. " ⑥特殊分類規程 8. " ⑦伝記資料 9. " ⑧総合問題 10. " ⑨総合問題			
[成績評価の方法] 授業時に行う演習問題の解答と、出席状況とで評価する。	[参考文献] 『日本十進分類法 第9版』(日本図書館協会) 千賀正之著『図書分類の実務とその基礎 改訂版』(日本図書館協会)			
[教科書] 演習問題はプリントを用意する。 木原通夫ほか著『資料組織法 最新版』(第一法規出版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
情報機器論		秋学期	2単位	藤間 真
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近年の図書館は、単なる紙の集積ではない。色々な情報機器によって装備されている。そのことは、本学の図書館に1歩入って周りを見渡すだけでわかるであろう。言い換えると、情報機器に関する知識はこれからの司書にとって不可欠の知識である。</p> <p>本講の目的は図書館における情報機器に関する基本的な知識の修得である。単なる現状追認に終わらず、司書としての人生に役立つよう本質的な理解を目指す。</p> <p>具体的な計画は右欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と講義の進展の状態に応じて変更することもありうる。</p>		<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本講義で要求するレポートのレベルについて ・情報を機械で扱うとは ・図書館学の五法則と情報機器 ・図書館で使われる情報機器 ・情報処理システムの基礎知識 ・パソコンの基礎知識 ・視聴覚機器とプレゼンテーション 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末レポートを主に、平常成績を加味し総合的に判断する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>進行状況に応じて指示する。 尚、講義に必帯とはしないが、 志保田務・平井尊士 編著 図書館と情報機器・特論：情報メディアの活用第一法規 に目を通すことは要求する。</p>		
<p>[教科書]</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
学校図書館論Ⅰ（学校図書館と学校経営）		秋学期	2単位	志 保 田 務
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>学校図書館に関する総論である。学校図書館について総括的に把握するとともに、「司書教諭科目」の基礎科目という視点から学んで行く。「講義計画」に記したよう講義を展開する。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校経営と学校図書館（総説） 2 学校図書館と法規・基準 1 3 学校図書館と法規・基準（2） 4 学校図書館の管理運営（1） 5 学校図書館の管理運営（2） 6 学校図書館の管理運営（3） 7 司書教諭、学校司書の働き 8 学校図書館の授業への寄与（1） 9 学校図書館の授業への寄与（2） 10 学校図書館の授業への寄与（3） 11 学校図書館をめぐるネットワーク（1） 12 学校図書館をめぐるネットワーク（2） 13 マトメ（テスト） 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テストその他</p>		<p>[参考文献] 図書館の指定図書コーナーを見ること。</p>		
<p>[教科書] プリントによる。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
学校図書館論Ⅱ（学校図書館メディアの構成）		春 学 期	2 単 位	志保田務
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本科目は、学校図書館法のもと学校図書館司書教諭講習科目「学校図書館メディアの構成」にあたる。次のような概要と学修目標を有する。</p> <p><内容></p> <p>1) 学校図書館メディアの種類と特性</p> <p>2) 学校図書館メディアの選択と構成</p> <p>3) 学校図書館メディアの組織化</p> <p>資料配列法： 書架分類法：日本十進分類法（NDC） 図書記号法 別置法</p> <p>資料目録法： 主題目録法 件名法：基本件名目録法（BSH） 書誌分類法 名称による検索：日本目録規則（NCR）1987年版改訂版 著者検索 タイトル検索 キーワード検索</p> <p>目録の機械化 多様な学修環境と学校図書館メディアの配置</p> <p><目標></p> <p>1) 学校図書館司書教諭の資格の取得</p> <p>2) それにふさわしい、資料組織化、資料構成に関する知識の取得</p> <p>3) 学校図書館の実務業務に役立つ知識の獲得</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1 メディアの構成：資料論</p> <p>2 分類</p> <p>3 書架分類</p> <p>4 日本十進分類法 1</p> <p>5 同上 2</p> <p>6 分類法演習 1</p> <p>7 同上 2</p> <p>8 目録法</p> <p>9 同上（タイトル目録）</p> <p>10 同上（著者目録）</p> <p>11 同上（件名目録）</p> <p>12 機械化目録</p> <p>13 多様な学習環境と学校図書館メディア</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テスト70% 課題応答20% 出席10%</p>	<p>[参考文献]</p> <p>木原通夫 [ほか] 『資料組織法』第5版 第一法規 2002</p> <p>高鷲忠美 [ほか] 『学校図書館メディアの構成』放送大学教育振興会 2000</p>			
<p>[教科書]</p> <p>木原通夫、志保田務『分類・目録法入門：メディアの構成』第一法規 新改訂第3版 2002</p> <p>①生協にて一括購入し販売する</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
学校図書館論Ⅲ（学習指導と学校図書館）		春学期	2 単 位	林 陸 雄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>学校図書館の役割は、児童・生徒の読書意欲を高め、各教科の学習指導、調べ学習、総合学習等の学習指導に寄与することにある。そのためには、常に読書ニーズや学習目的を点検し、それに見合った図書・資料を選択・収集し、適切に活用できる環境を整える必要がある。さらに、彼らの学習を深め、その結果を発表する能力を育成することも求められている。この講義では、計画的な図書館運営とメディア活用能力育成のための指導について、その基本と実際をとりあげる。</p> <p>授業の展開に当たっては、現場で実践されている先生を、ゲスト講師として適宜お招きする。</p> <p>なお、学校図書館司書の役割と能力は幅広く奥深いものであるから、基礎資格に教員免許を必要とし、教員としての実務経験を10年ほど得ないことには、十全にその役割を遂行し得ないことを十分に認識しておくこと。教員免許と学校司書教諭免許があれば、大学新卒でもその専門職として採用され、直ちにその職務に就くことができるなどと、思いこまないでほしい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1. 授業びらき</p> <p>2. 学校図書館の新しい役割 1</p> <p>3. 学校図書館の新しい役割 2</p> <p>4. 発達段階と学習指導</p> <p>5. メディア活用能力の育成 1</p> <p>6. メディア活用能力の育成 2</p> <p>7. メディア活用能力も育成 3</p> <p>8. 情報サービス</p> <p>9. レファレンス・サービス</p> <p>10. 情報の収集と提供</p> <p>11. 情報サービスとネットワーク活用</p> <p>12. まとめ（テスト）</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況、授業毎の小レポート、ならびに定期試験の結果を総合して評価する。ただし、2/3以上の出席のないもの、遅刻早退の多いもの、授業に積極的に参加しないものは、評価の対象としない。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>志村尚夫監修 朝比奈大作 編著『学習指導と学校図書館』 樹村房</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
学校図書館論Ⅳ（読書と豊かな人間性）		秋学期	2単位	林 陸 雄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>子ども達の豊かな心を醸成するに当たって、読書指導及び読書体験の深化は重要な役割を担っている。</p> <p>この授業では、子どもたちの読書ニーズを涵養し、読書活動を推進・援助し、人間性豊かな醸成に資する学校図書館活動の基本と実際についてとりあげる。授業の展開に当たっては、ゲスト講師を適宜お招きする。</p> <p>なお、学校図書館司書の役割と能力は幅広く奥深いものであるから、基礎資格に教員免許を必要とし、教員としての実務経験を10年ほど得ないことには、十全にその役割を遂行し得ないことを十分に認識しておくこと。教員免許と学校司書教諭免許があれば、大学新卒でもその専門職として採用され、直ちにその職務に就くことができるなどと、思いこまないでほしい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 読書と人間1 2. 読書と人間2 3. 発達段階と読書 4. 中学生と読書 5. 読書指導 6. 学校図書館の整備と運営 7. 読書資料の種類と特性1 8. 読書資料の種類と特性2 9. 図書館情報と案内 10. 地域関連機関との協力 11. 読み聞かせ、ストーリーテリング 12. まとめ（テスト） 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業毎の小レポート、定期試験の結果を総合して評価する。 ただし、2/3以上の出席のないもの、遅刻早退の多いもの、授業に積極的に参加しないものは、評価の対象としない。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>志村尚夫 監修 赤星 隆子 編著『読書と豊かな人間性』 樹村房</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学	01	秋学期集中	4単位	北川 紀男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>社会学は、「方法としての社会学(Soziologie als Methode)」とも云われ、他の社会科学や人文科学を学ぶ者にとっても、おおいに役立つ学問である。従って、法学部、経済学部、経営学部、文学部の諸君にも受講してもらいたい科目である。</p> <p>そこでまず、社会学とはどういう学問であるのかを、その研究対象、社会学的なものの考え方・見方、その学問的特徴を概説することから始める。その上にとって、家族、地域社会（農村と都市）、職場、組織（会社と組織）といった具体的な日常生活の場を取り上げて考察する。</p> <p>ついで、激しく変動する現代社会を捉える視点として社会変動の問題や、社会調査をはじめとする社会学の研究手法論について触れる。最後に、現代社会の抱える様々な社会問題について社会学的な考察を試みる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>講義は、以下のテーマに従って進める予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①イントロダクション ②社会学徒はどういう学問か ③社会学の研究対象 ④社会学的なものの方見方・考え方 ⑤家族 ⑥農村社会 ⑦都市社会 ⑧会社・職場 ⑨集団・組織 ⑩労働 ⑪社会変動 ⑫社会調査 ⑬社会問題 ⑭まとめ 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末試験、レポート、出席状況に基づいて総合的に評価する。講義時間数の3分の1以上を欠席した者は、単位認定の対象外とする。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>別途指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>秋元律郎・石川晃弘・羽田新・袖井孝子著 『社会学入門（新版）』（有斐閣）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学	02	秋学期集中	4単位	竹内 真澄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>社会学は、外縁のはっきりしない、ゼリー状の生物のようなものである。だから、どう論じても、とめどなく広がり、けっきょくわからないで終わりやすい。</p> <p>こういう曖昧さを回避できるかどうか自信はないが、昔アドルノとホルクハイマーが試みたような一種の「社会学事柄辞典」のようなものを構想し、人間と社会に関するドラマをいくつかの「お話」にしてみてもどうかと思っている。つまり、社会学が何であるかはわからなかったが、あれこれの「話」は印象に残った、というようなことをねらってみる。</p> <p>これさえインプットできれば、何年もたったあと、ひょっとして社会学というのはこういうことだったのではないかと受講生の誰かが思ったりするのではないかな。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>以下のようなドラマを考えている（順序はどうなるかわからない）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 戦争とファシズム 2. 近代的自我とは何か（個人とは何か） 3. 競争の人生 4. 北欧の人生 5. アマルティア・センと「合理的な愚か者」 6. 価値と現実（マックス・ウェーバー） 7. 「啓蒙の弁証法」としての明治維新（近代化は野蛮化） 8. ハイチ・リベリア・日本（戦後傀儡政権の野望） 9. アメリカという傘 10. ハワード・ジン 11. サイドについて 12. 経験の死滅？ 13. チョムスキー 14. フェミニズム 15. 丸山眞男を超えて 16. 東アジアの共同体 17. 木下順二の演劇から 18. デンマーク社会主義民衆党 19. 輪切りの理論と歴史の理論 20. 山田太一 21. イスラエルとパレスチナ 22. 福祉国家を超えて 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末試験で評価するが、レポートを課すこともあるので、その場合は総合して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>その都度指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>ハワード・ジン著 竹内真澄訳『ソーホーのマルクス』こぶし書房</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
医学一般		秋学期集中	4単位	郭 麗月
<p>[講義概要・学習目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人体の基本的な構造や機能について理解させる。 2 臨床医学の各分野の概要について理解させる。 3 医学的リハビリテーションの概要について理解させる。 4 現代社会の代表的な疾患について理解させる。 5 公衆衛生の概要を理解させる。 6 保健医療対策の概要を理解させる。 7 医事法制と保健・医療機関及び専門職について理解させる。 8 社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。 	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人体の構造・機能 2 一般臨床医学（内科、外科、整形外科、神経・精神科等）の概要 3 医学的リハビリテーションの概要 4 現代社会と疾病 <ol style="list-style-type: none"> 1) がん、生活習慣病 2) 各種感染症 3) 神経・精神疾患 4) 先天性疾患 5) 難病 6) その他 5 公衆衛生の現状 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人口動態 2) 疾病と受療状況 3) 医療関係者 4) 医療施設 6 保健医療対策の現状 7 医事法制と保健・医療機関及び専門職 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療法、医師法、保健婦助産婦看護婦法等、医事法制の概要 2) 保健・医療機関、専門職と福祉専門職の連携のあり方 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート、定期試験の成績で評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>適時紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>福祉士養成講座編集委員会編 社会福祉士養成講座13「医学一般」（中央法規）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
介護概論	01	春学期	2単位	但馬直子
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
1 介護の役割と範囲を理解させるとともに、看護・医療及び家政との関係について理解させる。 2 具体的な介護の展開過程や介護の実際について演習形式等を活用し理解させる。 3 身体的及び精神的な変化に対する観察能力を身につけ、それらの変化に速やかに正しく対処できる能力を養い、保健・医療機関、専門職との連携、協力及び必要に応じたその手助けをすることができるようにする。 4 病気や遭遇しやすい事故についての知識をもち、それらに対する予防措置を講ずることができるようにする。	1 介護の目標、機能及び範囲 1) 介護の原則、目標、機能及び範囲 2) 自立的な生活維持に対する需要と介護の役割 3) 成人期以降、老人・障害者の生活上の需要と介護の役割 4) 健康維持のメカニズム 5) 終末期の介護 6) 介護過程の展開 2 介護技法（安全、快適、安寧、健康水準の低下予防等）の基本 1) 住生活環境の安全管理（感染防止） 2) 食事 3) 排泄 4) 衣服の着脱 5) 入浴・身体の清潔と感染防止 6) 移動空間の確保 7) 健康習慣の獲得 8) 体力の維持（運動と機能維持） 9) 自己達成と社会生活の維持（レクリエーションと学習等） 10) 療養時の対応 11) 緊急・事故等の対応 12) 介護家族への生活維持援助 13) 福祉用具の活用 3 介護関係維持のための技法 1) 健康や生活の観察技法 2) コミュニケーションの技法 3) 記録と情報の共有化の技法 4) 介護専門職（介護福祉士）と医師・看護婦・保健婦等医療専門職との連携のあり方 5) 介護専門職とその他の福祉専門職（社会福祉士）との連携のあり方 4 介護活動の場に特有な問題と技法 1) 家庭 2) 施設			
[成績評価の方法]	出席状況とレポートの内容を勘案し総合的に評価する。			
[教科書]	『新版社会福祉士養成講座14 介護概論』（中央法規）			
[参考文献]	『ケアマネジメントのための福祉用具アセスメント・マニュアル』市川洵（編）（中央法規） 『痴呆の人々のケアが活かせる場所グループホーム』中島紀恵子（編著）（日本看護協会出版会） 『日常生活に援助を必要とする人の在宅ケア』奥宮暁子・後閑容子（編著）			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
介護概論	02	春学期	2単位	山本明美
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
1 介護の役割と範囲を理解させるとともに、看護・医療及び家政との関係について理解させる。 2 具体的な介護の展開過程や介護の実際について演習形式等を活用し理解させる。 3 身体的及び精神的な変化に対する観察能力を身につけ、それらの変化に速やかに正しく対処できる能力を養い、保健・医療機関、専門職との連携、協力及び必要に応じたその手助けをすることができるようにする。 4 病気や遭遇しやすい事故についての知識をもち、それらに対する予防措置を講ずることができるようにする。	1 介護の目標、機能及び範囲 1) 介護の原則、目標、機能及び範囲 2) 自立的な生活維持に対する需要と介護の役割 3) 成人期以降、老人・障害者の生活上の需要と介護の役割 4) 健康維持のメカニズム 5) 終末期の介護 6) 介護過程の展開 2 介護技法（安全、快適、安寧、健康水準の低下予防等）の基本 1) 住生活環境の安全管理（感染防止） 2) 食事 3) 排泄 4) 衣服の着脱 5) 入浴・身体の清潔と感染防止 6) 移動空間の確保 7) 健康習慣の獲得 8) 体力の維持（運動と機能維持） 9) 自己達成と社会生活の維持（レクリエーションと学習等） 10) 療養時の対応 11) 緊急・事故等の対応 12) 介護家族への生活維持援助 13) 福祉用具の活用 3 介護関係維持のための技法 1) 健康や生活の観察技法 2) コミュニケーションの技法 3) 記録と情報の共有化の技法 4) 介護専門職（介護福祉士）と医師・看護婦・保健婦等医療専門職との連携のあり方 5) 介護専門職とその他の福祉専門職（社会福祉士）との連携のあり方 4 介護活動の場に特有な問題と技法 1) 家庭 2) 施設			
[成績評価の方法]	出席状況とレポートの内容を勘案し総合的に評価する。			
[教科書]	『新版社会福祉士養成講座14 介護概論』（中央法規）			
[参考文献]	『ケアマネジメントのための福祉用具アセスメント・マニュアル』市川洵（編）（中央法規） 『痴呆の人々のケアが活かせる場所グループホーム』中島紀恵子（編著）（日本看護協会出版会） 『日常生活に援助を必要とする人の在宅ケア』奥宮暁子・後閑容子（編著）			

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
精神科リハビリテーション学		秋学期集中	4 単位	栄 セツコ
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<ol style="list-style-type: none"> 1 精神科リハビリテーションの概念について理解させる。 2 精神科リハビリテーションの構成について理解させる。 3 精神科リハビリテーションのプロセスと技術について理解させる。 4 精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解させる。 5 精神科リハビリテーションにおける連携について理解させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 精神科リハビリテーションの概念 <ol style="list-style-type: none"> 1) リハビリテーションの概念と歴史 2) リハビリテーションの理念、意義と基本原則 3) 精神科リハビリテーションの概念 4) 精神科リハビリテーションの理念と意義 5) 精神科リハビリテーションの基本原則と技法 6) わが国及び諸外国の精神科リハビリテーションの現状 2 精神科リハビリテーションの構成 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神科リハビリテーションの対象 2) 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割 3) 精神科リハビリテーションに関わる専門職等との連携 4) 精神科リハビリテーションの施設 <ol style="list-style-type: none"> ①病院リハビリテーション施設等 ②社会復帰施設及びその他の社会資源（小規模作業所、グループホーム、地域生活支援事業など） ③精神保健福祉センター及び保健所 ④その他の協力機関、支援団体 5) 精神科リハビリテーションの関連領域 3 精神科リハビリテーションのプロセス <ol style="list-style-type: none"> 1) リハビリテーション計画 2) アプローチの方法 <ol style="list-style-type: none"> ①病院におけるリハビリテーション ②社会復帰施設及びその他の社会資源におけるリハビリテーション ③地域におけるリハビリテーション 3) 疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション 4 医療機関におけるリハビリテーション <ol style="list-style-type: none"> 1) 作業療法およびレクリエーション療法 2) 集団精神療法 3) 行動療法 4) 認知行動療法（生活技能訓練を含む） 5) 家族教育プログラム 6) デイケアおよびナイトケア 7) 精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護指導 5 精神保健福祉士が行うリハビリテーション <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神保健福祉士が関わる医学的リハビリテーション <ol style="list-style-type: none"> ①集団精神療法における精神保健福祉士 ②生活技能訓練における精神保健福祉士 ③デイケアおよびナイトケアにおける精神保健福祉士 2) 社会的リハビリテーション <ol style="list-style-type: none"> ①日常生活への適応のための訓練 ②社会復帰のための相談・助言・指導 6 精神科リハビリテーションの総合化 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域リハビリテーション <ol style="list-style-type: none"> ①地域ネットワーク ②ケアマネジメント ③地域生活支援事業と訪問援助 ④家族会および自助グループ ⑤ボランティアの育成と活用 2) 職業リハビリテーション 3) 精神保健福祉施策と精神科リハビリテーション 			
[成績評価の方法]	毎時、主席状況、レポート等で総合的に評価する。			
[教科書]	特になし			
[参考文献]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
精神保健福祉援助技術各論		通 期	4 単位	重 野 勉
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<ol style="list-style-type: none"> 1 精神障害者の疾病及び障害に配慮した個別援助技術（ケースワーク）について具体的事例に基づき理解させる。 2 精神障害者の疾病及び障害に配慮した集団援助技術（グループワーク）について具体的事例に基づき理解させる。 3 精神障害者ケアマネジメントについて具体的事例に基づき理解させる。 4 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）について具体的事例に基づき理解させる。 5 精神障害者を対象とした援助技術について具体的事例に基づき理解させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 精神障害者を対象とした個別援助技術（ケースワーク） <ol style="list-style-type: none"> 1) 疾病及び障害に配慮した個別援助技術 2) 個別援助技術の実際と適用分野 3) 個別援助技術におけるスーパービジョン 4) 具体的事例検討 2 精神障害者を対象とした集団援助技術（グループワーク） <ol style="list-style-type: none"> 1) 疾病及び障害に配慮した集団援助技術 2) 集団援助技術の実際と適用分野（生活技能訓練を含む） 3) 集団援助技術におけるスーパービジョン 4) 具体的事例検討 3 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク） <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域援助技術の概念と基本的性格 2) 地域援助技術の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> ①ノーマライゼーションの推進と住民参加 ②社会資源の活用と開発 ③地域社会における連携と調整機能 ④家族会、自助グループの支援 ⑤ボランティア等地域マンパワーの育成と活用 ⑥地域援助 			
[成績評価の方法]	レポート提出			
[教科書]	精神保健福祉士養成セミナー（第6巻）『精神保健福祉援助技術各論』（へるす出版）			
[参考文献]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
精神保健福祉援助演習		通 期	4 単位	栄 セツコ
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。</p> <p>2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法が学生個々に身につくよう、精神障害者の社会復帰に対する援助事例を取り上げるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導の下で、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で事例研究およびロールプレイ等を行う。その際、次の点に留意する。</p> <p>1 実習前においては、少なくとも精神病院等保健・医療施設及び社会復帰施設等福祉施設における精神障害者援助技術のモデル的な事例を取り上げ、講義の内容を深め、実習の教育効果が上がるようにする。</p> <p>2 演習を通して援助関係の実際及びチーム医療の実践を身につけるようにする。</p> <p>3 実技指導等 (1) 面接実技指導 (2) 記録実技指導 (3) 集団実技指導 (4) 評価・効果測定実技指導</p> <p>4 精神保健福祉士としての、職業倫理についての理解を身につけるようにする。</p> <p>5 実習後においては、実習総括をふまえて、精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法をより深めて身につけさせるようにする。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、課題への取り組み状況、レポートなどで総合的に評価する。</p>				
<p>[教科書]</p> <p>特になし</p>	<p>[参考文献]</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
精神保健福祉援助実習	0 1	通 期	6 単位	郭 麗 月
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。</p> <p>2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。</p> <p>3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。</p> <p>4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。</p> <p>5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1 実習オリエンテーション 2 視聴覚学習 3 現場体験学習 4 見学実習（急性期病棟など） 5 専門援助技術実習指導 6 リハビリテーション実習指導 7 配属実習 8 全体総括</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>全出席（学内・学外）を条件とする。実習記録、実習レポート、実習研究報告、実習先評価を総合して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>適時紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編 精神保健福祉士養成セミナー 第8巻 『精神保健福祉援助実習』 （へるす出版）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
精神保健福祉援助実習	02	通 期	6単位	栄 セツコ
[講義概要・学習目標] 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。	[講義計画] 1 実習オリエンテーション 2 視聴覚学習 3 現場体験学習 4 見学実習（急性期病棟など） 5 専門援助技術実習指導 6 リハビリテーション実習指導 7 配属実習 8 全体総括			
[成績評価の方法] 全出席（学内・学外）を条件とする。実習記録、実習レポート、実習研究報告、実習先評価を総合して評価する。	[参考文献] 適時紹介する。			
[教科書] 特になし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
音声学・音韻論 (旧 英語音声学)		秋学期集中	4 単位	南 條 健 助
[講義概要・学習目標] この授業では、「音韻論は音声学の一部である」という英国学派音声学（British School of Phonetics）の伝統に従い、主として英語音声学を概説することとし、その合間に音韻論の研究手法と最新の研究成果に関する基本的な知識を与える。 英語音声学では、英国学派の実践音声学（practical phonetics）に基づき、標準的なアメリカ英語の音声を、主として調音（articulation）の面から科学的に研究する。実践音声学とは、自分の耳で聞いた聴覚印象や、自分で発音した際の音声器官（vocal organs）の状態および筋肉運動を知覚するといった自己観察に基づいて、音声を記述・分析する音声学の研究手法の一つである。したがって、この授業では、まず第一に、英語の音声を正確に聞き取るとともに、聞き取った音声を、個々の母音・子音ばかりでなく、そのつながり方や強勢・リズム・音調にいたるまで、忠実に再現し、発音した際に、自分の舌や唇あるいは喉などが、どのような動きをしているかを感じ取ることができる能力を身に付けてもらう。授業では、そのための音声学訓練（phonetic training）に、かなりの時間を割くことになる。また、そのような訓練と並行して、毎週少しずつ音声の理論と英語の音声事実を勉強していく。	[講義計画] 開講時に講義計画書を配布する。			
[成績評価の方法] 開講時に説明する。	[参考文献] 講義中に紹介する。			
[教科書] 開講時に指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅰ		春学期集中	4単位	有川康二
<p>[講義概要・学習目標] どんな教授法（教え方の哲学や方法）、どんな教科書にも長所と短所がある。要は、様々な教授法や教科書の長所をなるべく多く利用することである。ここでは、日本語の初級文法に焦点を絞り、（教師にとっての）実践的な文法整理と、（学習者にとって）効果的なドリルの紹介やシミュレーションを行う。</p> <p>一定の制限された状況（＝教室内）や時間内（初級の集中コースとして例えば週15時間の約6か月）に、日本語を母語としない人に日本語文法全体の基礎的な体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習を行い、「使える日本語」を身につけてもらうためには、教える側に特別な知識と技術が必要となる。何語でもそうだが、ある言葉が話せることと、その言葉を外国語として他者に体系的、説得的に教えることができる能力とは別物である。同時に、「何故、自分は外国語を学ぶのか？何故、自分は日本語を外国語として教えるのか？」という問いを問いつけなくてはならない。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>指示表現（こそあと） 形容詞 存在表現 時制（テンス） 保留形（テ形） 願望の助動詞ta/gar 可能の助動詞e/rare 様態・推量の助動詞soo/yooda/rasii テイル・テアル・テオク（窓が開いている・開けてある・窓を開けておく） 授受表現（やる・あげる・もらう） 態（受身・使役・使役受身） 条件表現（雨が降ったら・降るなら・降れば・降ると） 敬語（お読みになる・お読みする・なさる・いたす）</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席・筆記試験</p>	<p>[参考文献]</p> <p>三浦昭『初級ドリルの作り方』（凡人社）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>東京YMCA日本語学校（編）『入門日本語教授法』（創拓社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅱ（旧 日本語教授法Ⅱ（2））		通 期	4単位	友 沢 昭 江
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日本語学習者の多様化にそって、多くの教材が開発されています。実際の教育に携わる者は、学習者の学習目標や言語背景を考慮に入れ、最も効果的な成果をあげるために最適な教材を選択する眼を持たなければなりません。さらには、市販の教科書や教材ではまかないきれない部分を補充するための自主作成教材を臨機応変に作成する能力も必要とされます。本講では具体的な教授項目を示しながら、それに適した教科書や教材にどのようなものがあるかを紹介し、その特徴の分析を行います。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>初級の教え方（発音／会話） 初級の教え方（文字／読解） 中上級の教え方（会話／聴解） 中上級の教え方（読解／情報収集） 評価と試験 いろいろな外国語教授法</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末に試験を行います。それ以外にも授業への参加の姿勢、与えられた課題にしたがってのレポート作成、および出席状況を総合的に考慮して評価を行います。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>『はじめての日本語教育1：日本語教育の基礎知識』（高見澤孟、アスク） 『初級ドリルの作り方』（三浦昭、凡人社） 『教え方の基本』（日本語教育演習シリーズ⑤、丸山敬介、凡人社） 『日本語教師をめざす人の日本語教授法入門』（石橋玲子、凡人社） 『概説日本語教育』（遠藤樹枝編、三修社）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>『はじめての日本語教育2：日本語教育入門』（高見澤孟）（アスク、1996）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅲ		通 期	2 単位	友 沢 昭 江
【講義概要・学習目標】 本講では日本語学および日本語教授法関連の授業を受講した後、その知識や経験を総合して、実際の教育の場面で学習者とのようなインタラクティブを行うかという、実践力の養成を目的とします。知識として獲得したことをいかに効果的に提示し、学習者のもつ多様なニーズや問題をどのように処理するかを、実際の授業形態の中で学びます。そのため、原則として日本語教授法Ⅰおよび日本語教授法Ⅱを終了した人へのみ受講を認めます。	【講義計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な教授法をビデオによるモデル授業を見ること等を通して比較検討します。 ・グループに分かれて、基本的な教授内容をいかに実際の教育現場で教えるかを研究し、発表します。 ・グループ単位で、実際の授業を組み立て、模擬授業として発表します（二回）。 ・実際の日本語授業を見学したり、希望者には夏期休暇中に学外(国内・海外)での教育実習(希望者)を行います。 			
【成績評価の方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・学期初めにノートを作り、毎回の授業の内容をまとめるほか、適宜出される課題もそこに書き込み、一月間に一回程度の割合でノートを提出してもらい、それを出欠を含む、授業への貢献度の材料として判断します。 ・グループ単位で行う作業は、学生間の相互評価を行います。(各自が評価表に書き込み、それをクラスで開覧して、フィードバックとします。) 	【参考文献】 『教え方の基本』（丸山敏介、京都日本語学校） 『日本語教育論集』（吉田彌壽夫監修、学研） 『概説日本語教育』（遠藤織枝編、三修社） 『実践日本語教授法』（名柄迪監修、中西家栄子他、バベルブックス） 『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』（名柄迪他、アルク） 『日本語教育への道』（土岐哲他、凡人社） 『日本語教師をめざす人の日本語教授法入門』（石橋玲子、凡人社） 『日本語の地平線』（吉田彌壽夫古稀記念論集編集委員会、くろしお出版）			
【教科書】 『はじめての日本語教育2：日本語教育入門』（高見澤孟） （アスク、1996）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
博物館概論		春学期	2 単位	井 上 敏
【講義概要・学習目標】 学芸員資格課程の基幹科目である。最初の授業で、学芸員課程の諸科目で何を学ぶのか、この「概論」の目的はなにかについて、見取り図を提供する。この授業で、博物館に関する最も基礎的な知識を学ぶ。	【講義計画】 1. 博物館の目的と機能 2. 博物館の歴史 3. 博物館の現状 4. 博物館倫理 5. 博物館関係法規 6. 生涯学習と博物館			
【成績評価の方法】 平常点、レポート、およびテストを総合的に評価する。	【参考文献】			
【教科書】 広瀬隆人（編）『博物館学基礎資料』樹村房（2001年）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
博物館学各論Ⅰ（旧博物館学各論）		春学期	2単位	水 口 薫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近年、博物館及び博物館相当施設が増え、社会におけるその機能、役割が注目されてきている。特に生涯学習、学校教育、研究活動において、その領域は拡大し、その必要性と相まって博物館への関心は高くなっている。新しい博物館像が模索される中でも、学芸員は博物館の基本機能である資料収集、保存、研究、教育・普及活動の知識と活用する能力が求められている。</p> <p>本講義では、博物館学芸員が身につける「博物館資料論」を内容とする。</p> <p>博物館学芸員が身につける博物館機能の構成要因の一つである博物館資料の収集・保管・展示等についての基礎知識の習得、調査・研究、教育・普及活動及び情報の意義と活用方法についての理解を図る。</p> <p>適時ビデオ資料を使用する。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>「博物館資料論」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館とは何か 博物館資料の概念 2. 博物館資料の種類と特質 3. 博物館資料の収集・調査と整理 4. 博物館活動と資料情報 5. 博物館資料の取り扱い方と製作 6. 博物館資料の保存と劣化対策 7. 虫菌害と防除対策 8. 博物館資料の利用 9. 展示の実際1 展示と環境・条件 10. 展示の実際2 展示方法と照明 11. 展覧会の企画と開催 12. 博物館の危機管理と地震対策 13. 資料論からみた博物館 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を兼ねた小テスト（適時）、定期試験と出席点にて総合評価</p>		<p>[参考文献]</p> <p>『博物館学教程』大堀哲編（東京堂出版） 『博物館学概説』網干善教編（関西大出版部）</p> <p>その他、講義の時に提示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>「博物館ハンドブック」（雄山閣）加藤有次、椎名仙卓（編）</p> <p>適時、プリントを配布。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
博物館学各論Ⅱ（旧博物館学各論）		秋学期	2単位	水 口 薫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近年ミュージアム・マネージメントという研究活動領域が拡大している。生涯学習の必要性と相まって博物館への関心は高く、博物館でも教育・福祉・援助・環境保護などあらゆることにマネージメント感覚が求められている。</p> <p>本講義では、博物館学芸員が身につける「博物館経営論」「博物館情報論」を内容とする。</p> <p>博物館学芸員が身につける博物館機能の構成要因の一つである博物館経営、教育・普及活動及び情報の意義と活用方法についての理解を図る。</p> <p>適時ビデオ資料を使用する。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>「博物館経営論」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館の行財政 2. 博物館経営の理念と方法（ミュージアム・マネージメント） 3. 博物館の組織と職員及び施設・設備 4. 博物館と利用者、地域社会との関係 5. 博物館における教育普及活動の意義と方法 6. 博物館における市民参加とボランティア 博物館友の会・後援会 7. 博物館の出版活動 8. 博物館の広報活動 <p>「博物館情報論」</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 博物館における情報の意義 10. 博物館における情報提供と活用の方法 11. 博物館における情報機器とその利用 12. 情報発信機関としての博物館 13. 博物館の教育・普及活動における資料と情報 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を兼ねた小テスト（適時）、定期試験と出席点にて総合評価</p>		<p>[参考文献]</p> <p>『ミュージアム・マネージメント 博物館運営の方法と実践』（東京堂出版） 大堀哲、小林達雄、端信行、諸岡博熊（編）</p> <p>その他、講義の時に提示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>「博物館ハンドブック」（雄山閣）加藤有次、椎名仙卓（編）</p> <p>適時、プリントを配布。</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
博物館実習Ⅰ		9月集中	1単位	井上 敏
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>博物館資料の取り扱いや展示に関する基礎的なことを大学内、および学外の施設で実習する。分野ごとに専門の教員が分担して指導する。</p> <p>予定している実習は、「文書資料の取り扱い」、「パソコンを利用した視聴覚資料の作成」、「顕微鏡観察」、「土器の復元」、および「考古遺物の実測」である。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>9月中旬に、5日間、連続で実施する。 詳細な日程は、追って発表する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>全出席が原則である。おもに実習ノートによって評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
博物館実習Ⅱ		集中コース	1単位	井上 敏
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>博物館の多様性を理解するために、各種の博物館において見学研修を行う。専任教員が交代で引率し、出席の確認をする。土曜、日曜、または休暇中に実施する。総計で12回、実施するが、そのうち4回は両コース共通、コース別にそれぞれ4回である。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>日程の詳細は追って発表するが、予定している博物館は下記の通りである。</p> <p>両コース共通：和泉市いずみの国歴史館、大阪歴史博物館、滋賀県立琵琶湖博物館、国立民族学博物館。</p> <p>産業文化コース：交通科学博物館、ガス科学館、UCCコーヒー博物館、なにわの海の時空館。</p> <p>東洋文化コース：和泉市久保惣記念美術館、堺市博物館、大阪城天守閣、大阪府立弥生文化博物館。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>おもに実習ノートによって評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
博物館実習Ⅲ		集中コース	1単位	井上 敏
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>指定した博物館で5日間程度の館務実習を行う。実習先の博物館としては、高野山霊宝館、和泉市いずみの国歴史館、堺市博物館、トヨタ博物館、産業技術記念館、ガス科学館、なにわの海の時空館、などを予定している。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>4月のガイダンス時に、各人の実習博物館の指定を行う。実習は夏期休暇中に行われるが、その具体的日時や実習内容は、博物館によって大幅に異なる。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>実習館の評価表と実習ノートに基づいて行う。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

「大学英語入門A」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
11	岩永道子	全学部 〈再履修クラス〉	Terry O'Brien	<i>Bridge to College English</i>	南雲堂
12	Raoul Cervantes	全学部 〈再履修クラス〉	Jack Richards Rod Ellcs	<i>Basic Tactics For Listening</i> <i>Impact Intro</i>	Oxford Longman

「大学英語入門B」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
11	今井由美子	全学部 〈再履修クラス〉	John S. Lander	<i>American Voyager</i>	Asahi Press
12	近藤撰子	全学部 〈再履修クラス〉	伊藤典子他	<i>English through the News Media</i>	朝日出版社

英語 I (リーディング) 使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
11	西崎和子	経済 〈再履修クラス〉	Goudsblom, Johan	<i>Fire in Human History</i>	鷹書房 弓プレス
12	前田淑江	経済 〈再履修クラス〉	中村眞佐男 長尾素子 アラン・ハント	<i>International Communication</i>	大阪教育図書
21	吉田一穂	社会・社会福祉 〈再履修クラス〉	Gary B. Rodgers 米田絃一 森 茂	<i>Millennial London</i> (21世紀のロンドン)	松柏社
22	佐藤充弘	社会・社会福祉 〈再履修クラス〉	中川一郎	『国際報道の英語2003/2004』	三修社
31	西崎和子	経営 〈再履修クラス〉	Goudsblom, Johan	<i>Fire in Human History</i>	鷹書房 弓プレス
32	上田洋子	経営 〈再履修クラス〉	Gillian Flaherty 他	<i>Which side are you on ?</i> 英語で考え、話す社会問題	成美堂
33	和栗了	経営 〈再履修クラス〉	B. Hadaway & J. Atcheson 広瀬孝文 注解	<i>Episodes in the New Testament</i>	成美堂
41	近藤摂子	文 〈再履修クラス〉	中村憲明他	<i>Newspaper English</i> — 2003/2004 Edition —	成美堂
42	渡邊真理子	文 〈再履修クラス〉	Roy E. Charron	<i>Profiles of the American Dream</i>	金星堂

英語Ⅱ（リーディング）（ライティング）（リスニング・スピーキング）使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
〈リーディング〉					
01	川上 与志夫	文 〈編入生クラス〉		新学期が始まってから様子をみて決定します	
11	木村 博 是	文	T. O'Brien	<i>A Trip to Britain</i>	南雲堂
12	坂本 姫子	文	Reginald Rose	<i>Twelve Angry Men</i> ¥1,300	開文社
13	Alan Greenhalgh	文	Mikiso Hane	<i>Eastern Phoenix: Japan Since 1945</i>	Westview press
〈ライティング〉					
01	kathryn L. マルヤマ	文 〈編入生クラス〉		開講時に指示する	
11	佐藤 充 弘	文	Haruo Kizuka Roger Northridge	『英作文の盲点200』	Macmillan Language House
12	中島 剛	文	Hisatake Jimbo Richard B. Murto	<i>Paragraphs That Communicate</i>	Macmillan Language House
13	笹井 悦子	文	村田和代 大谷麻美	<i>English Composition Workbook Essential Grammar and Functional Writing Skills</i>	Macmillan Language House
〈リスニング・スピーキング〉					
01	Carlquist L. Harris	文 〈編入生クラス〉	Steve Molinsky Bill Bliss	<i>Side by Side 2 textbook and workbook</i> (workbook 付き)	Prentice Hall Regents
11	都築 郷 実	文	熊井信弘 Stephen Timson	<i>Hit Parade Listening (Second Edition)</i>	Macmillan Language House
12	前田 淑江	文	Shozo Kurokawa Jason B. Alter	<i>Listening Comprehension in English</i>	南雲堂

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
13	辻井悦子	文	Todd Jay Leonard	<i>alk, Talk: American-style</i>	Macmillan Language House
14	玉巻欣子	文	椋平 淳・深山晶子 玉巻欣子・川越栄子 早瀬淳一・福田慎司	<i>Curing the Future</i>	成美堂

英語Ⅲ（リーディング）（ライティング）（リスニング・スピーキング）使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
〈リーディング〉					
11	小野良子	英語英米		開講時に指示する	
12	大原始子	英語英米	Casey Malarcher Byoung-Man Jeon	<i>Reading culture and comprehension 1</i>	Macmillan Language House
〈ライティング〉					
01	Ronald Cline	英語英米 〈編入生クラス〉		開講時に指示する	
11	佐々木 英 哲	英語英米	津田塾大学英文学科 編	パラグラフから始める英文ライティング入門 <i>Effective Writing from the Paragraph Up</i>	研究社
12	中 島 剛	英語英米	Jane McELroy	<i>Write Ahead: A Process Approach to Academic writing</i>	Macmillan Language House
〈リスニング・スピーキング〉					
01	Denise Haugh	英語英米 〈編入生クラス〉	Jack Richards & Deborah Gordon Compiled by Alan Spoonos	<i>Listen for It-Wew Edition A Task-Based Listening Course</i> <i>Quick Reference Thesauns Revised Edition</i>	Oxford Oxford
11	堀 内 真由美	英語英米	Lin Loughheed	<i>Preparation Series For the TOEIC TEST Introductory Course</i>	Longman
12	笹 井 悦 子	英語英米	山根 繁 Kathleen Yamane	<i>ABC World News 5</i>	金星堂

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済英語 I		通 期	2 単位	和 田 肇
〔講義概要・学習目標〕 <p>日本の経済は、今や世界経済と密接な関係にあります。今後、益々金、物、人、サービスの交流が活発になり、経済のみならず、ビジネス活動がグローバル化、高度化していきます。学生諸君は将来、国際社会で活躍するにあたり、パソコン操作の習得に加え、英語での交渉能力と英語で経済が読める能力を備え、教養を高めておく必要があります。これらのツールの一つとして、英字新聞が最適です。</p> <p>このクラスでは、英字新聞を通じ日本、世界経済の事象を学びます。記事の解説と同時に、文法、同義語、反意語にもふれていきます。日本のマスメディアとはやや異なる視点で世界を俯瞰しましょう。私が金融マンとして海外駐在中に学んだ米国、アジアでの経験が、将来国際部門で活躍したいと志しておられる学生さん達のお役に立てば幸いです。</p> <p>英語と日本語の新聞を読むのが好きな人の参加を期待します。但し、語学学習には、根気と知的好奇心が必要です。</p>	〔講義計画〕 (前期) 1. 日本企業の海外進出 7. エネルギー問題 2. 企業買収、合併 8. 地球の環境問題 3. リストラクチャリング 9. 時事問題 4. 倒産 10. 時自問題 5. 外食産業 11. 時事問題 6. マーケティング 12. 時事問題 (後期) 13. ベンチャービジネス 19. 金利 14. 外国企業の日本進出 20. 証券問題 15. 日本の景気動向 21. 時事問題 16. 世界の景気動向 22. 時事問題 17. 為替相場 23. 時事問題 18. 銀行経営 24. 時事問題 (注) 年間を通じ、時期を得た時事問題を織り込みます。			
〔成績評価の方法〕 <p>前期、後期の翻訳レポートの内容と出席率に基づき総合的に評価を行います。</p>	〔参考文献〕 英文経済記事の読み方 日本経済社 (日経文庫) 経済英語入門 日本経済社 (日経文庫) 新コンサイス時事英語辞典 三省堂/磯部 薫			
〔教科書〕 <p>不要 (当方にてプリントします)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ビジネス英語 I		通 期	2 単位	和 田 肇
〔講義概要・学習目標〕 <p>今後、グローバル社会で活躍するための必須条件として、パソコンと世界の主流語である英語を駆使する能力が各企業から求められています。英語を学習するにあたり、文法、単語、発音といったハードウェアの重要性もさることながら、その言語が主に使われている国の文化と人々の物の考え方をよく知り、つまりソフトウェアも併せて理解しておくことが必要です。</p> <p>このクラスでは、みなさんが企業人として米国への駐在した場合に遭遇するであろう下記の場面を想定して、英字新聞、雑誌、現地資料を使用して、文化の解説を行い、併せて発音、文法、同義語、反意語についてふれてゆきます。事前に日米文化の差異を理解し英語にも多少自信をつけておくと、将来不要なトラブルに巻き込まれずに、楽しい駐在生活が過ごせるでしょう。</p> <p>語学で苦勞した、私の金融マンとしての米国、インドネシアでの駐在経験が皆様のお役に立てば幸いです。</p>	〔講義計画〕 (前期) 1. 米国へ入国する際のビザの取得方法 7. 人事採用時の注意事項 2. 自動車免許の取得方法 8. 企業買収 (M&A) 3. 銀行口座開設方法 9. 弁護士の利用方法 4. クレジットカードの取得方法 10. 陪審員制度 5. 支店、現地法人開設の方法 11. 大統領選挙 6. 不動産購入方法 12. 時事問題 (後期) 13. 株主訴訟 19. コンプライアンス 14. 集団訴訟 20. 犯罪 15. 取締役責任 21. 離婚 16. 製造物責任 (P/L) 22. 環境保護 17. セクシュアルハラスメント 23. 時事問題 18. アフターマティバクション 24. 時事問題 (注) 年間を通じ、時期を得た時事問題を織り込みます。			
〔成績評価の方法〕 <p>前期、後期の翻訳レポートの内容と出席率に基づき総合的に評価を行います。</p>	〔参考文献〕 新コンサイス時事英語辞典 三省堂/磯部 薫			
〔教科書〕 <p>不要 (当方にてプリントします)</p>				

〈文学部国際文化学科 学科自由科目〉

「英語Ⅲ（リーディング）（ライティング）（リスニング・スピーキング）」

－ 応募要領 －

1. どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、授業への継続的な出席が欠かせないからです。
2. これらの科目は、学則上文学部国際文化学科教育科目の「学科自由科目（2単位）」に位置づけられています。
3. 履修登録にあたっては以下のとおり事前に予備登録（先着順受付）が必要です。

対 象 者 ： 97～01LI生

定 員 ： 50名

予備登録日時 ： 3月22日（土） 9:10～13:00（昼休憩なし）

場 所 ： 教務課窓口

申込方法 ： 先着順に受付決定します。教務課窓口で申込書を受け取り、必要事項を記入の上提出してください。

〈注意〉 申込みにあたっては、事前に授業時間割表で希望クラスの曜日・時限を確認しておいてください。

学生証がないと受付できないので、必ず持参してください。

〈国際文化学科 学科自由科目〉「英語Ⅲ」使用教科書一覧

担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
〈英語Ⅲ（リーディング）〉				
金城盛紀	国際文化 〈学科自由〉	Kenneth Clark	<i>Civilisation 1</i>	英宝社
〈英語Ⅲ（ライティング）〉				
Raoul Cervantes	国際文化 〈学科自由〉		開講時に指示する	
〈英語Ⅲ（リスニング・スピーキング）〉				
山科美和子	国際文化 〈学科自由〉	Okino, Y. et al. Morita, K	<i>Music of the Heart</i> <i>Practical Listening for TOEIC</i>	英宝社 金星堂

〈共通自由科目〉

「英語Ⅰ（リーディング）（ライティング）（リスニング・スピーキング）」

「英語Ⅱ（リーディング）（ライティング）（リスニング・スピーキング）」

「英語Ⅲ（リスニング・スピーキング）」

－ 応募要領 －

1. どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、授業への継続的な出席が欠かせないからです。
2. これらの科目は、学則上「共通自由科目（日本語・外国語系）（2単位）」に位置づけられています。
3. 履修登録にあたっては以下のとおり事前に予備登録（先着順受付）が必要です。

対 象 者 ： 97～01生（全学部・全学科）

定 員 ： 各クラス50名

予備登録日時 ： 3月22日（土） 9:10～13:00（昼休憩なし）

場 所 ： 教務課窓口

申込方法 ： 先着順に受付決定します。教務課窓口で申込書を受け取り、必要事項を記入の上提出してください。

〈注意〉「英語Ⅲ（リスニング・スピーキング）」〈共通自由科目〉については、海外留学経験者もしくは、それと同等の語学力を有するものを対象とするアドヴァンストクラスですので注意してください。

学生証がないと受付できないので、必ず持参してください。

〈共通自由科目〉「英語Ⅰ・英語Ⅱ・英語Ⅲ」使用教科書一覧

担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
〈英語Ⅰ（リーディング）〉				
Marlen Harrison	全学部 〈共通自由〉	Mikulecky Jeffries Cohen	①"Reading Pcieer" 0-201- 84674-8 ②Building Reading Fluency 0- 534-83693-3 ③Teacher's Guide 0-534-83694- 1 (Sensei Dake)	Longman Thomson Learning
〈英語Ⅰ（ライティング）〉				
Sandra Healy	全学部 〈共通自由〉		No Text	
〈英語Ⅰ（リスニング・スピーキング）〉				
Daniel M. Walsh	全学部 〈共通自由〉	Gershon, S. Mares, C.	Sound By 1 ISBN 0-13-096642-8	Prentice Hall ELT
吉田 一穂	全学部 〈共通自由〉	上杉明 他	Let's Chat! — A Total Approach to Writing, Listening and Grammar — (さあ始めよう、会話作文)	朝日出版社
〈英語Ⅱ（リーディング）〉				
Carlquist L. Harris	全学部 〈共通自由〉		none	
〈英語Ⅱ（ライティング）〉				
Marlen Harrison	全学部 〈共通自由〉	Paulik Segal	①Interactions 1 Writing 0-07- 112388-1 ②Instructors(Sensei Dake) Manual 0-07-248139-0	Mcgraw Hill
〈英語Ⅱ（リスニング・スピーキング）〉				
Jeffrey Herrick	全学部 〈共通自由〉	Dale Fuller, Clyde W. Gramm	Milestones	Macmillan Language House
〈英語Ⅲ（リスニング・スピーキング）〉				
kathryn L. マルヤマ	全学部 〈共通自由〉		開講時に指示する	

「演習」等研究テーマ、使用教科書一覧

担当者	研究テーマ	使用教科書
〈経済学部〉「演習3」		
一ノ瀬 篤	現代日本の金融機関	さくら（三井住友）銀行調査部編『ビジュアル 金融の基本』（日経文庫）
伊代田 光彦	経済格差をめぐる諸問題	橋木俊詔著『日本の経済格差』（岩波書店） 経済企画庁国民生活局編「第3章 所得格差の分析」『新国民生活指標』（平成11年版、コピーによる）
上野 勝男	社会発展史を学ぶ —社会と歴史を見ないと自分も見えない—	ロバート・ハイルブローナー『未来へのビジョン』（東洋経済新報社、1,500円）
梅本 哲世	エネルギーと環境	未定
桂 昭政	グローバル化と日本経済	金子 勝 『長期停滞』（ちくま新書） 島本慈子 『子会社は叫ぶ——この国でいま、起きていること』（筑摩書房）
河合 勝彦	経済学分野におけるデータ処理とシミュレーション	高橋麻奈（2002）『やさしいJava』（第2版 ソフトバンクパブリッシング） 高橋麻奈（2001）『やさしいXML』（ソフトバンクパブリッシング） 深沢千尋（1999）『すぐわかるPerl』（技術評論社）
木村 二郎	日本経済の行方	未定。テキスト決定次第E-Mailで連絡するので、各自第1回目の演習前に生協で入手すること。
熊谷 次郎	バブルの歴史 —かくも懲りずになぜ人はバブルに走るのか—	エドワード・チャンセラー著／山岡洋一訳『バブルの歴史』（日経BP社、2000年）
佐賀 朝	都市社会・地域社会の歴史的研究	随時、提示します。芝村篤樹『都市の近代・大阪の20世紀』（松籟社、1999年）などを予定していますが、事前に購入する必要はありません。
芝村 篤樹	都市について考える	その都度指定する
鈴木 健	腐蝕する政官財癒着システム	黒田 清『権力犯罪』（労働旬報社）
滝田 和夫	景気循環の研究	ラース・トゥヴェーデ著、赤羽隆夫訳『信用恐慌の謎』（ダイヤモンド社）

担当者	研究テーマ	使用教科書
竹 歳 一 紀	食料・資源・環境をめぐる諸問題	レスター・R・ブラウン著 『エコ・エコノミー』（家の光協会） （予定、最初の時間に指示する）
津 田 直 則	経済と社会の再生に向けて	
中 野 瑞 彦	デフレ経済と投資行動	未定。テキスト決定次第連絡する。 或いは第一回目演習時に指示するので各自生協にて購入のこと
中 村 勝 之	「考える」とは何ぞや!?	使用しない
西 川 憲 二	日本経済の過去・現在・将来	
野 田 知 彦	雇用不安について考える	樋口美雄『雇用と失業の経済学』 （日本経済新聞社）
藤 田 香	環境政策の財政学	藤田 香『環境税制改革の研究』 （ミネルヴァ書房、2001年。）
前 田 治 郎	現代のヨーロッパ経済	未 定
三 邊 信 夫	貿易と経済発展	
望 月 和 彦	良識を養う	竹内靖雄『経済倫理学のすすめ』 （中公新書） 残りは授業開始時に指示する
矢 根 眞 二	「企業・産業の戦略・組織の研究」と「コー ディネーション能力の養成」	希望コースを考慮したうえで、1月末ぐらい には決定する予定です（テキスト例などはサ イトを参照して下さい）。
義 永 忠 一	「キギョウ」について（製造業）	その都度指示をします
〈社会学部・社会学科〉「専門演習3」		
巖 圭 介	環境問題にどう取り組むか	安井 至『市民のための環境学入門』 （丸善ライブラリー276 1998年）
過 放	エスニシティの社会学	購入を必要とする図書については別途指示す る
北 川 紀 男	文化の諸問題 ～現代文化の理解に向けて～	北川紀男（著）『文化社会学研究』 1999年（八千代出版）
木 下 栄 二	「家族現象」からみる現代日本 —家族はどう語られているか?—	ゼミ中に適宜指示する
清 水 由 文	「食」の社会学	未 定

担当者	研究テーマ	使用教科書
鈴木 富久	現代社会と人間主体	飯田・中川・浜岡（編著）『新・人間性の危機と再生』（法律文化社） 小林・大関・鈴木・竹内・伊藤（共著）『人間再生の社会理論』（創風社）
鈴木 博信	世界をよむ・ロシアをよむ	追って、1. すくなくとも数冊のリストを発表しますので、入手されたし。2. 新聞（できれば日経新聞）の購読、をはじめておいてください。
竹内 真澄	アメリカニズムと福祉国家	ハワード・ジン著、岩淵達治監修竹内真澄訳『ソーホーのマルクス』（こぶし書房、2002年）
津金澤 聡 廣	広報社会学の方法 広報社会学の関連研究分野について深く学習する。	事前説明会で文献リストを配布し、詳しく説明する。
中村 秀之	〈テレビ〉を考える——日常生活のなかのメディアとコミュニケーションの研究	未定（そもそも特定の「テキスト」を使用するかどうかも未定）
西川 一廉	若者の職業意識を考える	未定
原田 達	社会学の基本的概念を「読みこなし」「使いこなす」	森下伸也『社会学がわかる事典』（日本実業出版社、2000年）
宮本 孝二	社会学的分析の実践	その都度指示ないし配布する
〈社会学部・社会福祉学科〉「専門演習3」		
石田 易司	障害者・高齢者のいきがづくりとキャンプ	『CAMPING FOR ALL』
郭 麗月	精神保健とソーシャルワーク	随時指定する
北野 誠一	福祉サービスの質を究める	適宜指示する
栄 セツコ	ソーシャルワーク実践における基本的視点	随時指定する
坪山 孝	介護保険時代の高齢者福祉分野に関する施設および在宅サービスの研究	特に使用しないが、適宜資料を配布する。
松本 眞一	非行・虐待と児童福祉	松本眞一（著）『児童福祉論』（相川書房） 松本眞一（著）『少年保護と児童福祉』（相川書房）
安原 佳子	子どもの発達支援、子育て支援	授業で随時指示する

担当者	研究テーマ	使用教科書
〈経営学部〉「専門演習3」		
明石吉三	情報社会における情報技術・システムの役割	特になし
稲別正晴	日本企業のコーポレート・ガバナンス	教材は担当者の方で用意します
井上敏	博物館・文化財保護の諸問題	・後藤和子『文化政策学』（有斐閣） ・中村賢二郎 『文化財保護制度概説』（ぎょうせい） ・大堀哲・小林達雄・端信行・諸岡博熊『ミュージアム・マネージメント』（東京堂出版） (受講生と話し合って、いずれかを選択)
今木秀和	イノベーション・マネジメントについて	追って指示する
鬼塚光政	「トヨタ生産方式」を巡る諸問題	追って指示する
面地豊	経営労働論	学生がテーマを決めるのであるから、私からは、決まったテキストは考えていない。
片岡信之	21世紀初頭の日本における産業・企業の位置と展望	運営のため、特にテキストは指定しない。
岸本裕一	グローバル社会における流通と芸術とエンターテインメントとの相互連関	岸本裕一・田中達彦（著）『タイアップソング・マーケティング』（同文館） 岸本裕一・生明俊雄（著）『J-POPマーケティング』（中央経済社）
小林哲夫	コスト・マネジメント／原価計算に関する研究	加登 豊・李 建『ケースブック コストマネジメント』（新世社）
清水信匡	利益獲得のための計画＋コントロールの研究	澤田昭夫（著）『論文の書き方』（講談社学術文庫153）講談社 エリヤフ・ゴールドラット（著）（三本木亮訳）『ザ・ゴール』（ダイヤモンド社2001年）
鈴木幾多郎	日本型マーケティングの革新	嶋口充輝・竹内弘高（編）『マーケティング革新の時代①顧客創造』（有斐閣）
武田久義	リスク・マネジメントの研究	後日指示する
野田俊範	現代企業社会システムの研究	適宜指示する

担当者	研究テーマ	使用教科書
長谷川 彰	日本商業史について考える	藤田貞一郎他（著）『日本商業史』（有斐閣）
深谷 清之	IT技術とビジネスモデル、経営に関する研究	適宜指示する
朴 大栄	会計レンズを通して見た企業経営	伊藤邦雄『ゼミナール現代会計入門』 （日本経済新聞社）
牧野 丹奈子	情報化時代における企業組織	追って指示する
村上 伸一	現代の組織マネジメント	田尾・若林（編）『組織調査ガイドブック』 （有斐閣，2001年）
村山 博	経営情報技術を活用したビジネスモデルの研究	別途指示する
〈文学部・英語英米文学科〉「セミナーⅠ」		
岡田 章子	英詩を楽しむ	斉藤和明（注釈）『入門英米詩選』 （研究社小英文叢書）
金城 盛紀	シェイクスピア研究	Anna Claybourne & Rebecca Treays, <i>World of Shakespeare</i> （金城盛紀・斎藤安以子編注，2002、マクラミン ランゲージハウス）
日下 隆平	世紀末の社会と文化—詩と小説を通じて	1 R.K.R. Thornton（編）、 <i>Poetry of the Nineties</i> , Penguin Books 2 テーマに応じて資料を配布
Kevin R. Gregg	言語とこころ：言語心理学研究	なし
鳥田 勝正	「良い」言語テストの条件	なし
清水 真一	英語の構造の多角的な研究	授業中にプリントにて配布する
藤森 かよ子	アメリカの草の根の人々の精神を知るために：アメリカの超人気大衆作家アイン・ランド研究	Ayn Rand, <i>The Fountainhead</i> （Signet版New American Library発行） <i>Atlas Shrugged</i> （Signet版New American Library発行） ゼミ初回時に販売するが、amazon.comで入手できる。大変ぶ厚い本である。
〈文学部・国際文化学科〉「国際文化演習AⅠ」		
青野 正明	現代韓国および韓国・朝鮮文化の研究	古田博司・小倉紀蔵（編）『韓国学のすべて』 （新書館，2002年5月）
梅山 秀幸	日本文化の諸相を考える	

担当者	研究テーマ	使用教科書
小池 誠	世界のメディア	
小林 信彦	日本の仏教説話	原田敏明／高橋貢（訳），『日本霊異記』（『東洋文庫』97，平凡社） 本演習の趣旨にふさわしい説話を選んで，原文テキストを複写で配布する。インド原本の日本語訳は担当者が用意して複写で配布する。
原山 煌	伝統的中国とその周辺	間野英二『内陸アジア』地域からの世界史（朝日新聞社）
〈文学部・国際文化学科〉「国際文化演習BⅠ」		
岩津 洋二	ヨーロッパ文化研究	
国松 夏紀	ロシアとその文化	(1) 和田春樹（編）『〈新版・世界各国史22〉ロシア史』（山川出版社） (2) 原卓也監修『〈読んで旅する世界の歴史と文化〉ロシア』（新潮社）
Raoul Cervantes	Narrative Psychology	
友沢 昭江	日本のバイリンガリズム	中島和子『バイリンガル教育の方法』（アルク）1998年
山川 偉也	ギリシアの哲学者たち	山川偉也『古代ギリシアの思想』（講談社学術文庫）
ロー・ヤマサキ・アニー	今のフランス事情を研究する	プリントを利用します
米山 喜晟	現代のイタリア文化はいかに形成されたか——その歴史的、地理的、経済的、社会的、文化的基盤とさまざまな問題点の研究	米山喜晟（編著）『イタリア地方文化理解のための歴史年表』（プリント使用）
〈全学部・全学科（社会福祉学科を除く）〉「共通演習3」		
高橋 ひとみ	子どもの遊びとスポーツ	高橋ひとみ（著）『子どもの健康科学』（明研図書）
竹中 暉雄	現代教育の諸問題	使用しません
生瀬 克己	「大東亜」戦争といわれた時代を生きる人びとと現代	倉沢愛子『「大東亜」戦争を知っていますか』（講談社現代新書 680円）
松浦 道夫	ヒトの本能を考える	

セ
ミ

「演習」等研究テーマ、使用教科書一覧

担当者	研究テーマ	使用教科書
〈経済学部〉「演習4」		
荒木 英一	経済モデルを学ぶ	
一ノ瀬 篤	バブル再考	一ノ瀬篤・角南英郎『激動期の日本銀行金融政策：1971—1989年』 (大学教育出版) 1999年
伊代田 光彦	経済格差をめぐる諸問題	橋木俊詔著『日本の経済格差』(岩波書店) 経済企画庁国民生活局編「第3章 所得格差の分析」『新国民生活指標』(平成11年版、コピーによる)
上野 勝男	わたしはだれ、ここはどこ？ ——経済社会の昨日・今日・明日——	ロバート・ハイルブローナー著／宮川公男訳 『未来へのビジョン』 (東洋経済新報社刊)
桂 昭政	市場主義と日本経済 ——我々は現在進行しつつある弱肉強食の社会(市場万能社会)を乗り越えられるか——	伊藤元重『市場主義』(日経ビジネス人文庫) 佐和隆光『市場主義の終焉——日本経済をどうするのか——』(岩波新書) 金子 勝『セーフティーネットの政治経済学』 (ちくま新書)
河合 勝彦	経済分野におけるデータ処理の方法と情報の共有	
木村 二郎	日本経済の行方	
熊谷 次郎	日本の経済思想	テッサ・モリス＝鈴木著／藤井隆至訳『日本の経済思想——江戸期から現代まで——』 (岩波書店) 1991年
巖 善平	中国のWTO加盟と経済の国際化	
佐賀 朝	都市社会・地域社会の歴史的研究	随時、提示する。芝村篤樹『都市の近代・大阪の20世紀』(松籟社、1999年)などを予定しているが、事前に購入する必要はない。
鈴木 健	腐蝕する政官財癒着システム	黒田清『権力犯罪』(労働旬報社)
滝田 和夫	景気循環の研究	ラース・トゥヴェーデ著、赤羽隆夫訳『信用恐慌の謎』(ダイヤモンド社)
竹 歳一紀	食料・資源・環境をめぐる諸問題	レスター・R・ブラウン編著『地球白書2001—02』(家の光協会)(ただし、次年度版が間に合えば使用するかもしれない)

担当者	研究テーマ	使用教科書
竹原 憲雄	「構造改革」を考える	
津田 直則	経済と社会の再生にむけて	
中村 勝之	「考える」ということについて考える	使用しない
西川 憲二	日本経済の過去・現在・将来	後藤 晃「イノベーションと日本経済」 (岩波新書)
野田 知彦	雇用不安を考える	
前田 治郎	現代のヨーロッパ経済	なし
前田 徹生	憲法問題エトセトラ	その都度紹介する
松尾 純	経済原論入門	大谷 禎之介著『図解 社会経済学——資本主義とはどのようなシステムか——』 (桜井書店) 2001年
三邊 信夫	貿易と経済発展	
モグベル ザファル	アジア経済の挫折と復興	アジア経済2001、経済企画庁調査局編、発行所、大蔵省印刷局
望月 和彦	ニッポンを討論する	猪瀬直樹「日本国の研究」(文春文庫)
矢根 眞二	「企業・産業の組織・戦略の研究」と「コーディネーション能力の養成」	メンバーの目標とレベルに応じて研究モデルの選択時に決定します
義永 忠一	「キギョウ」について	佐藤郁哉『フィールドワーク』 (新曜社、1992年)
〈社会学部・社会学科〉「専門演習4」		
上田 修	現代日本社会の探究	必要に応じて指示する
小川 登	日本の社会保障制度を知る	福祉士養成講座編集委員会(編)『社会保障論(新版)』(中央法規出版)2001年 川村匡由(編著)『社会保障論(第3版)』 (ミネルヴァ書房)2001年
軽部 恵子	国際問題のリサーチ・分析方法を学ぶ	鷲田小彌太『入門 論文の書き方』 (PHP研究所、1999年)
木下 栄二	「家族現象」からみる現代日本	ゼミ中に適宜指示する
清水 由文	「食」の社会学	

担当者	研究テーマ	使用教科書
鈴木 富久	現代社会と人間主体	飯田・中川・浜岡（編著）『新・人間性の危機と再生』（法律文化社） 小林・大関・鈴木・竹内・伊藤（共著）『人間再生の社会理論』（創風社）
鈴木 博信	世界をよむ・ロシアをよむ	池上 彰『そうだったのか！現代史』（集英社、2000年） 小林和男『図解 ロシアのしくみ』（中央出版、2001年）
竹内 真澄	現代社会の動向と対抗	後藤道夫『収縮する日本型〈大衆社会〉』（旬報社）
竹中 英紀	現代日本の都市と地域社会の社会学的研究	金子勇・森岡清志編著『都市化とコミュニティの社会学』（ミネルヴァ書房、2001年、4800円）
津金澤 聡 廣	広報社会学の方法	
出原 博明	漂泊と花鳥風月に遊ぶ	必要に応じてプリントを渡す
西川 一廉	若者の職業意識を考える	
原田 達	社会意識を読む	池井望・仲村祥一編『社会意識論を学ぶ人のために』（世界思想社）
松村 昌廣	国際戦略論の研究	随時指示する
宮本 孝二	社会学的分析の実践	その都度指示ないし配布する
村山 高康	現代国際政治研究——歴史と現状分析——	随時指定する
〈社会学部・社会福祉学科〉「専門演習4」		
石田 易司	障害者・高齢者のいきがいづくりとキャンプ	『CAMPING FOR ALL』
上野谷 加代子	コミュニティソーシャルワーク研究	厚生白書 13年度版 岩田正美・上野谷加代子・藤村正之（著） 『社会福祉入門——ウェルビーイングタウン——』（有斐閣アルマ）
郭 麗月	精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク	随時指定する
北野 誠一	ケアとその質についての検討	ゼミ活動中に適宜指示する
栄 セツコ	ソーシャルワーク実践における基本的視点	随時指定する
瀧澤 仁唱	現代日本の社会福祉と権利	必要があれば授業中指示する

担当者	研究テーマ	使用教科書
坪山 孝	介護保険時代の高齢者福祉分野における施設及び在宅サービスの研究	特に使用しない。適宜、資料を配付する。
松端 克文	社会福祉の援助・支援目標としての「地域自立生活」に関する研究	随時指示する
〈経営学部〉「専門演習4」		
明石 吉三	情報社会における情報技術・システムの役割	
稲別 正晴	日本の企業システムとその変革	テキストは担当者が用意する
今木 秀和	日本企業の財務戦略	
鬼塚 光政	「日本的生産システム」の海外移転	
面地 豊	経営労働論	学生がテーマを決めるのであるから、私からは、決まったテキストは考えていない。
片岡 信之	21世紀初頭の企業経営をさぐる	片岡信之・齋藤毅憲・高橋由明・渡辺峻『初めて学ぶ人のための経営学』（文眞堂）
岸本 裕一	流通と芸術とエンターテインメントとの相互関連	岸本裕一・田中達彦（著）『タイアップソング・マーケティング』（同文館） 岸本裕一・生明俊雄（著）『J-POPマーケティング』（中央経済社） みつとみ俊郎（著）『音楽ジャンルって何だろう』（新潮選書）
小林 哲夫	コスト・マネジメント及び戦略的管理会計に関する研究	特定していません
志保田 務	情報サービス組織論	高山正也編『図書館・情報センターの経営』（勁草書房）
清水 信匡	計画＋コントロールの研究	吉田新一郎著『会議の技法』（中公新書1520）（中央公論社） 澤田昭夫著『論文の書き方』（講談社学術文庫153）（講談社）
徐 龍 達	国際会計基準への入門	西川郁生監修『よくわかる国際会計基準』（中央経済社）1999年刊
武田 久義	保険とリスク・マネジメントの研究	プリントを配布する

担当者	研究テーマ	使用教科書
谷口照三	経営と倫理——21世紀における『経営の在り方』の探求——	A 小松隆二著『公益学のすすめ』 (慶應義塾大学出版会) 2000年 B ドーン・マリー・ドリスコル、W・マイケル・ホフマン著、菱山隆二・小山博之訳『ビジネス倫理10のステップ——エシックス・オフィサーの組織変革——』 (生産性出版) 2001年
全在紋	ビジネス・ゲームを通しての経営財務感覚の練磨	協和醸酵(著)『人事屋が書いた経理の本』 (ソーテック社)
野田俊範	現代企業社会システムの研究	適宜指示する
長谷川彰	日本商業史について考える	藤田貞一郎他著『日本商業史』(有斐閣)
林大葉	会計レンズを通して見た企業経営	伊藤邦雄『ゼミナール現代会計入門』 (日本経済新聞社)
牧野丹奈子	情報化時代における企業組織	
村山博	経営情報技術を活用したビジネスモデルの研究	
〈文学部・英語英米文学科〉「セミナーII」		
伊藤貞基	アメリカのポストモダン小説	Paul Auster, <i>The New York Trilogy</i> .
小野良子	英米現代演劇を読む／楽しむ	1. S. Beckett, <i>Waiting for Godot</i> 2. J. Osborne, <i>Look Back in Anger</i> 3. T. Williams, <i>The Glass Menagerie</i> 4. A. Miller, <i>The Death of A Salesman</i> 5. E. Albee, <i>Who's Afraid of Virginia Woolf?</i> 6. H. Pinter, <i>Betrayal</i>
佐々木英哲	Melvilleの“Billy Budd”を読む	Herman Melville. “Billy Budd, Sailor.” (『ビリー・バッド』) (北星堂)
中村祥子	イギリス小説を味わう	John Dougill著 <i>Popular Classics of English Literature</i> (英宝社)
林宅男	談話における言葉の意味研究	泉子・K・メイナード著「談話分析の可能性」 くろしお出版 (1997) 泉子・K・メイナード著「会話分析」 くろしお出版 (1993) プリント教材
萬戸克憲	異文化間コミュニケーションの立場からの英語教育	D. R. Levine, M/B/Adelman (共著) <i>Beyond Language: Cross-Cultural Communication</i> . Second Edition (Prentice Hall)

担当者	研究テーマ	使用教科書
南 條 健 助	英語音声学・音韻論研究	英米で出版されている英語音声学・音韻論の概論書
Michael Carroll	外国語を学ぶことと実用談話分析	
〈文学部・国際文化学科〉「国際文化演習AⅡ」		
今 澤 浩 二	西アジア・イスラーム世界に関する総合的研究	授業中に指示する
片 倉 穰	日本人の外国観、外国人の日本観に関する研究	とくにない
原 山 煌	「中華」と「夷狄」をめぐる諸問題	三田村泰助『黄土を拓いた人びと』生活の世界歴史2（河出文庫 河出書房新社）1991
深 澤 徹	吉備大臣入唐異聞	
〈文学部・国際文化学科〉「国際文化演習BⅡ」		
赤 瀬 雅 子	フランス文化	村岡・富田編『街角のフランス語』（駿河台出版刊）
滝 澤 武 人	チャップリンとその時代	チャップリン『自伝』上・下（新潮文庫） 岩崎 昶『チャーリー・チャップリン』（講談社現代新書）
友 沢 昭 江	開かれた言語としての日本語	講読する文献は教員が用意して、随時配布する。
橋 内 武	テキスト分析——ことばのしくみとはたらきを解き明かす	Carter, Ronald et al. (2001) <i>Working with Texts</i> . London:Routledge.
坂 昌 樹	ヨーロッパの歴史・文化・社会	
ロー・ヤマサキ・アニー	現代フランス演劇をよむ	プリントを利用します
〈全学部・全学科（社会福祉学科を除く）〉「共通演習4」		
冷 水 啓 子	子どもの発達と教育をめぐる諸問題	下山晴彦編『教育心理学Ⅱ——発達と臨床援助の心理学——』（東京大学出版会）
高 橋 ひとみ	子どもの遊びとスポーツ	高橋ひとみ著『子どもの健康科学』（明研図書）
生 瀬 克 己	日本近代の戦争と庶民生活	